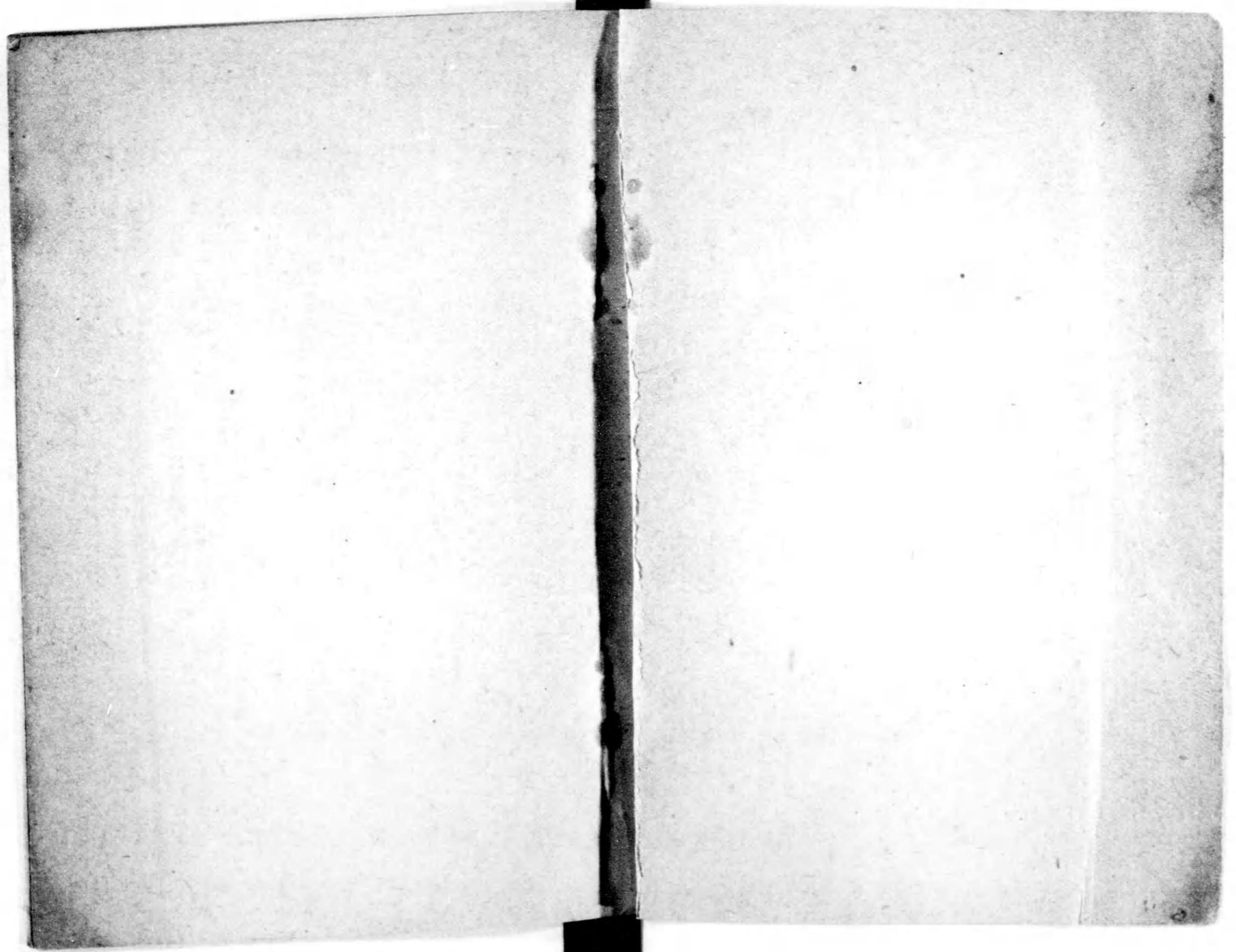


始ム



特100
271

騎兵機關銃手教程

軍友協會

緒 言

本書ハ騎兵聯隊ノ機關銃修業者ノ爲メ修習スベキ
典範類ヲ便宜合本トセシモノナリ

大正五年三月

軍友協會編纂部

第一
騎兵機關銃操典草案

騎兵機關銃操典草案

緒 言

第一 騎兵機關銃教練ニ關シテ本操典草案ニ示ササルモノハ總テ騎兵操
典改正草案ニ準據スヘキモノトス

本裝置草案ニ承せサシテハ騎兵機
一 騎兵機關銃操典草案

前 言

騎兵機關銃操典草案

騎兵機關銃操典草案目次

緒 言

練習及集合

第一篇 基本教練

第一 章 徒步教練

一 計單銃教練

總 則

銃長及銃手ノ定位

銃ノ組立及解脫

行 進

轉 同

解散及集合

目次

二

射擊準備

射擊

二部隊教練

總則

銃隊ノ編成及隊形

整頓

橫隊ノ運動

縱隊ノ運動

第一ノ隊形ヨリ他ノ隊形ニ移ル
解散及集合

射擊

第二章 乘馬教練

草案目次

九七

總則
銃隊ノ編成及隊形

駄載及卸下

整頓

橫隊ノ運動

縱隊ノ運動

一ノ隊形ヨリ他ノ隊形ニ移ル

第二篇 戰闘

附錄

駕馬取扱教練

總則

駄馬具ノ裝脱

目次

三

二九 二九 二八 二八 二五 二三 二二

三八 三八 四〇

目次

四

馬匹ノ誘導及騎繫
馬列ノ編成、分解及解散

鞭及鞭ノ保持法
馬取法

軍事訓練
一、訓練日程
二、訓練二種類
三、訓練方法
四、訓練手順

騎兵機關銃操典草案目次

二二

二三

二四

二五

二六

二七

二八

二九

第一章 徒步敎練

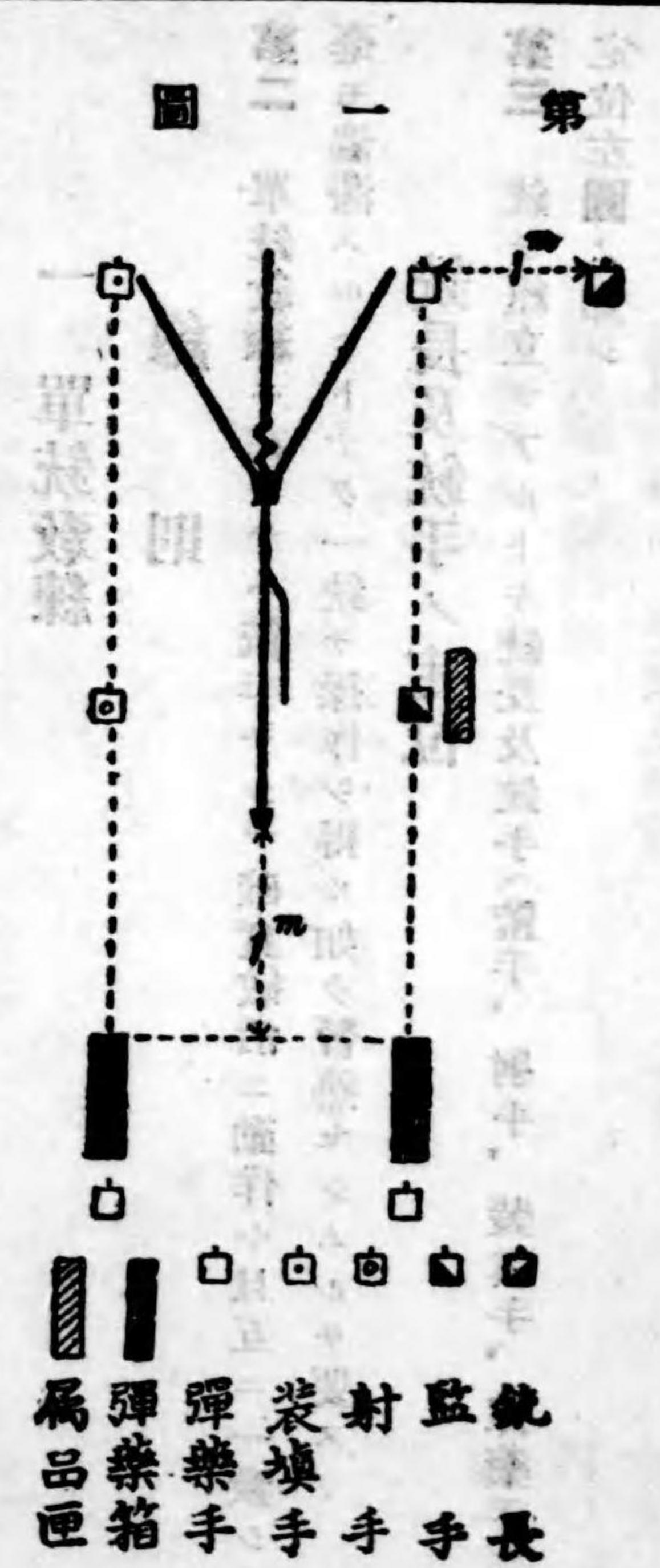
一、單銃敎練

總則

第二 單銃敎練ニ在リテハ銃手ヲシテ確實敏活ニ動作シ且互ニ一致シテ
毫毛滯滞スルコトナク一銃ヲ操作シ得ル如ク習熟セシムルヲ要ス

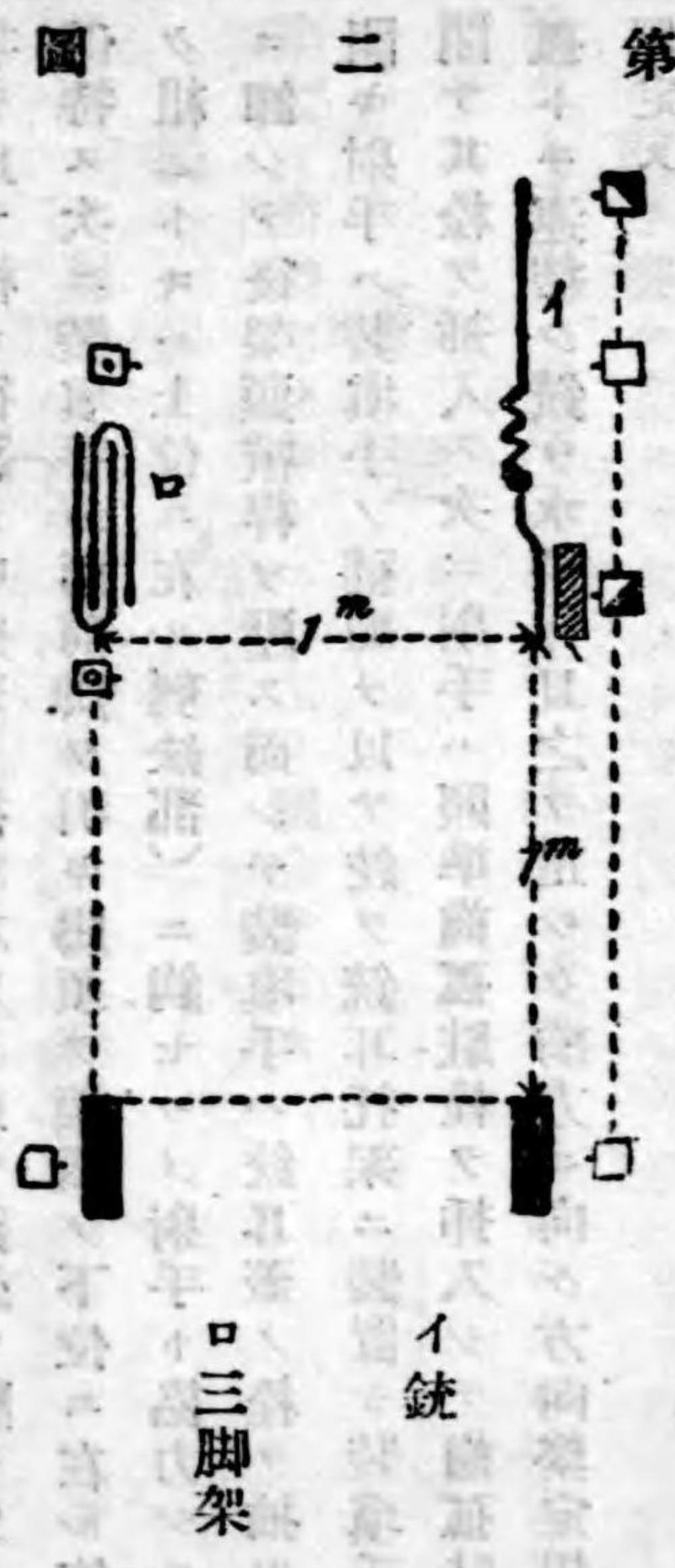
銃長及銃手ノ定位

第三 銃ヲ組立テアルトキ銃長及銃手(監手、射手、裝填手、彈藥手)ノ
定位左圖ノ如シ



第四 銃ヲ解脫シアルトキ銃長及銃手ノ定位左圖ノ如シ

第一章 戰走操練



第五 銃ヲ組立テシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

董正銃(ジウク)組(ムカシ)メ(銃(チ)高ク組(ムカシ)メ)

裝填手ハ架頭横桿ヲ扛起シ兩手ヲ以テ三脚架兩前脚ノ中央部ヲ保持シ射手ハ後脚ヲ伸ハシ脚架ヲ起シツツ駐栓ヲ挿入シ右手ヲ以テ架頭ニ近ク左手ヲ以テ概々後脚ノ中央部ヲ握リ左足ヲ以テ踵鐵ヲ壓シツツ之ヲ地上ニ保持ス次ニ裝填手ハ兩前脚ヲ引キ脚頭ヲ架頭ノ下位ニ在ル鈎部(銃(チ)高ク組(ムカシ)トキハ上位ニ在ル剝缺部)ニ鈎セシメ射手ト協力シテ脚架ヲ地上ニ卸シテ後架頭横桿ヲ壓ス而シテ裝填手ハ銃耳蓋ノ栓ヲ抽出シ銃耳蓋ヲ閉キ射手ハ裝填手ノ補助ヲ以テ銃ヲ銃耳托架ニ裝置シ裝填手ハ銃耳蓋ヲ閉チ其栓ヲ插入ス次ニ射手ハ照準齒弧駐栓ヲ挿入シテ齒弧駐梁ト照準齒弧トニ連結シ銃ヲ水平ニ且之ヲ正シク前方ニ向ケ方向緊定桿及解脫子ヲ緊定ス

銃手ハ材料ヲ整頓シタル後定位ニ就ク

第六 組立マアル銃ヲ解脫セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

第五ト反對ノ順序ヲ以テ行ヒ銃手ハ材料ヲ整頓シタル後定位ニ就ク

第十一 行進

第七 前進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

前ヘ進メ

命令ニテ射手ハ右手ヲ以テ後脚ヲ握リ裝填手ハ右手ヲ以テ左前脚ヲ一彈薬手ハ左手ヲ以テ右前脚ヲ握リ射手ト協力シテ銃ヲ提ケ監手ハ屬品匣ヲ提ケニ彈薬手ハ彈薬箱ヲ負ヒ動令ニテ發進ス

第八 停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

第九 分隊止レ(オリシケ)(フセ)

銃及其他ノ材料ヲ地上ニ置キ銃手ハ定位ニ就ク（膝姿又ハ伏姿ヲ爲ス）

第九 行進間斜行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
斜めに右（左）へ進メ

右（左）へ約四十五度轉回シ行進ヲ續行ス

第十 直行進ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
前へ進メ

第九ト反對ノ動作ヲ爲シ正面ニ復シ行進ス

轉 回

第十一 右（左）向チ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
右（左）へ廻レ

右（左）へ孤チ畫キツツ九十度轉回シ續テ行進ス但シ停止間ニ在リテハ第七ニ從ヒ銃ヲ提ク
七ニ從ヒ銃ヲ提ク

第十二 背轉ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
半輪に左へ進メ

第十一ニ準シ 左方ニ百八十度轉回シ續テ行進ス

解散及集合

第十三 解散セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
解散セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

銃及其他ノ材料ヲ現位置ニ置キタル儀解散ス
解散セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

第十四 集合セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
集合セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

銃及其他ノ材料ヲ現位置ニ置キタル儀解散ス
銃及其他ノ材料ヲ現位置ニ置キタル儀解散ス

第十五 停止シアルトキ射擊ノ準備ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
射擊準備

射擊用意

監手ハ銃ノ右側ニ伏臥シ擊莖抽出鉤及薬莢抽出鉤ヲ屬品匣ヨリ出シ銃ノ諸部ヲ點検ス

銃側ニ在ル彈藥手ハ直ニ後退シ踵鐵ノ後方約ハ米ノ所ニ伏臥ス銃後ニ在ル二彈藥手ハ彈藥箱ヲ架頭ト齊頭ニテ銃ノ左側ニ運搬シタル後銃側ニ在リシ彈藥手ノ左側ニ到リ伏臥ス

射手ハ銃ノ左側ニ伏臥シ床尾後端ヲ右肩ニ附着シ左手ヲ以テ横桿ヲ引キ遊底ヲ開キタル後横桿ヲ舊位ニ復シテ床尾ヲ握ル右手ヲ以テ安全栓ヲ發火ノ位置ニ裝シ而シテ其掌部ヲ以テ用心鐵ノ下部ヲ前方ニ壓シ食指ヲ引鐵ニ沿フテ伸ハシ其他ノ指ヲ以テ輕ク連發桿ニ觸ルル如ク握リ頭ヲ正面ニ保ツ

裝填手ハ射手ノ左側ニテ彈藥箱入後方ニ伏臥シ彈藥ヲ彈藥箱ヨリ出シテ之ヲ檢シ兩手ヲ以テ保弾鉗ヲ握リ眼ヲ裝填架ニ注キ裝填ノ準備ヲ爲ス

射擊

第十六 射擊ヲ行ハシムルニハ豫メ目標ヲ指示シ射擊準備ヲ命シ且照尺（要スレハ照準點）ヲ令スルモノトス

射擊號令ノ一例

某方向ニ現ハレタル縱隊ノ先頭

射擊用意

千米突

（照準點ハ中央）

擊力カレ（何連擊カカレ）

照尺ヲ令セラルレハ射手ハ之ヲ裝置ス
『擊力カカレ』ノ號令ニテ射手ハ連發裝置ニ爲シ裝填手ハ陸續裝填ス但シ保

徒步單銃教練

十

彈數連々發射ナル毎ニ霎時中止ス而シテ射手ハ絶エス照準ノ正確ヲ保持スルコトニ努ムヘシ

「何連擊力カレ」ノ號令ニテ示サレタル連數ヲ發射ス續テ射擊セシムルニハ「何連擊力カレ」或ハ「擊力カレ」ノ號令ヲ下ス

薙射ヲ行ハシムルトキハ照尺ノ次ニ「横(ヨコ)縦(タテ)ニ薙ケ」ノ號令ヲ加フ
一點照準ニ在リテハ方向緊定桿及解脫子ヲ緊定ス横方向ノ薙射照準ニ在リテハ解脫子ヲ緊定シ方向緊定桿ヲ緩メ縱方向ノ薙射照準ニ在リテハ方向緊定桿ヲ緊定シ解脫子ヲ緩メ以テ目標ニ沿ヒ徐々ニ照準點ヲ移動スルモノトス

第十七 機關銃ノ射擊ハ瞬時ニ多數ノ弾丸ヲ發射スルモノナルヲ以テ若シ其射擊精密ナラサレハ徒ニ無益ノ彈薬ヲ損失シ戰闘力ヲ減殺スルニ至ルモノトス

第十八 諸種ノ景況ニ在リテ射擊ノ方法ヲ懇篤ニ教習シ如何ナル場合ニ在リテモ最モ迅速且正確ニ實施シ得セシムルヲ要ス殊ニ諸種ノ目標ニ對スル照準並ニ射擊間故障ニ對スル迅速ナル處置ハ大ニ熟練セシメサルヘカラス

定規ニ充タサル人員ヲ以テスル射擊及駐螺桿ヲ旋回シテ行フ射擊モ亦習得セシムルヲ要ス

第十九 射擊ノ爲銃ヲ高起スルトキハ射手ハ鞍ニ跨座シ他ノ銃手ハ膝姿ヲ取ルヘキモノナリト雖地物ニ依託スルカ若クハ駐螺桿ヲ旋回セルカ如キ場合ニ在リテハ必要ニ應シ適當ナル姿勢ヲ取ルヘキモノトス

第二十 射擊ヲ中止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

擊方待テ

射手ハ連發桿ヲ握リテ引鐵ヲ舊位ニ復ス（要スレハ安全栓ヲ安全ノ位置

ニ装セシム)

第二十一 射撃ヲ停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

擊方止メ

第二十ト同一ノ動作ヲ行ヒ次ニ射手ハ横桿ヲ引キ裝填手ハ保彈鉢ヲ抽出ス而シテ射手ハ安全栓ヲ安全ノ位置ニ装シ銃及照尺ヲ舊位ニ彈薬手ハ彈薬箱ヲ定位ニ復シ監手ハ諸品ヲ屬品匣ニ收容ス

銃手ハ定位ニ就ク

二 部隊教練

總則

第二十二 部隊教練ニ在リテハ銃隊ヲシテ規定ノ動作ヲ迅速確實ニ施行シ得セシムル如ク教習セサルヘカラス
部隊教練ハ銃隊ノ爲ニ運動ヲ規定シタルモノナリト雖小隊ニ在リテモ亦

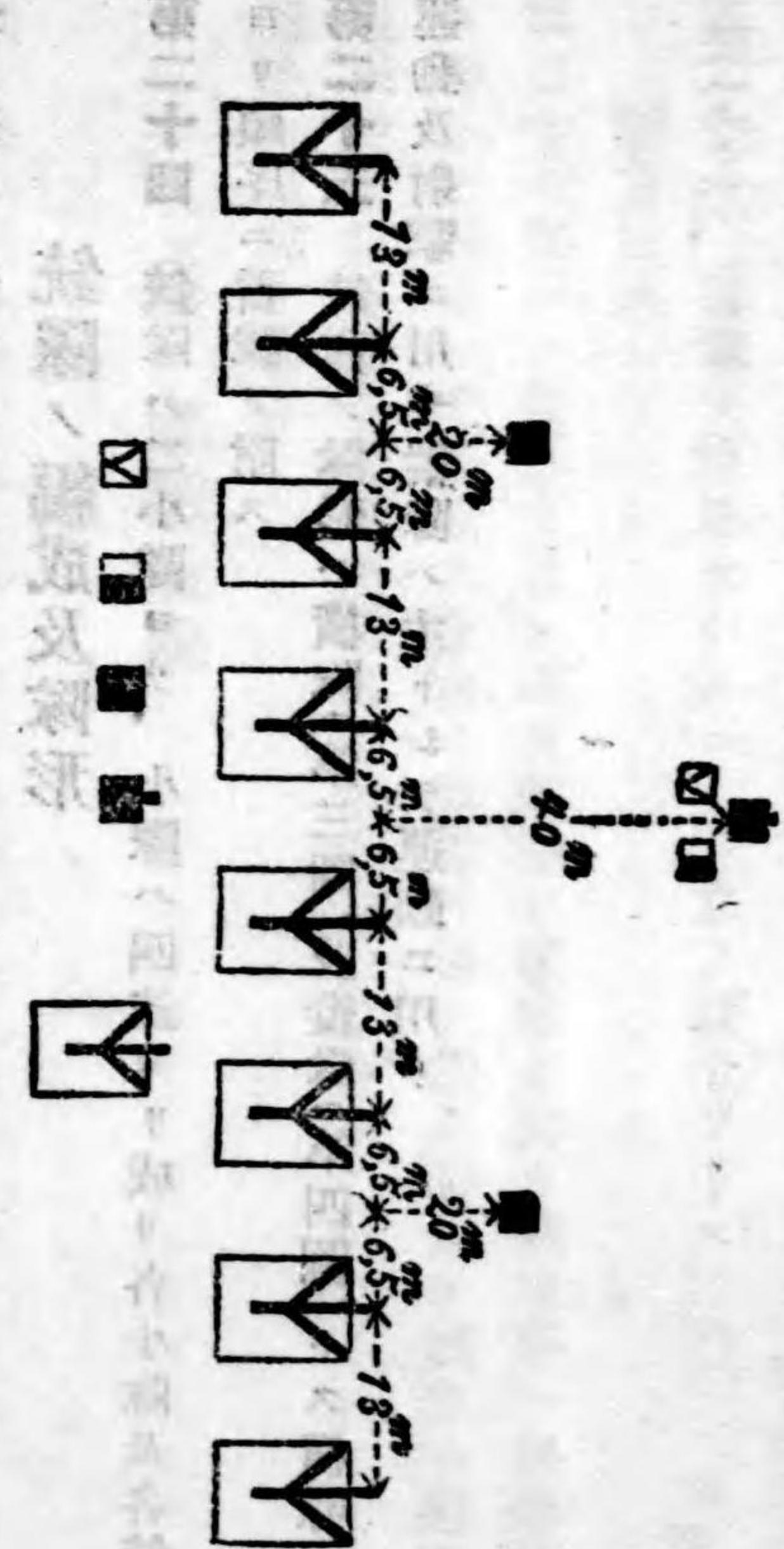
之ニ準シ教練ヲ施行スヘシ但シ號令中「銃隊」ヲ「小隊」ニ代フ

第二十三 基準ハ横隊ニ在リテハ左翼小隊長ニ縱隊ニ在リテハ先頭小隊長ニ取ルヲ常トス

銃隊ノ編成及隊形

第二十四 銃隊ハ二小隊ヨリ、小隊ハ四銃ヨリ成リ各小隊及各銃ハ右翼ヨリ順序ニ番號ヲ附ス

第二十五 銃隊ノ隊形ハ横隊(第三圖)及縱隊(第四圖)トス横隊ハ集合、運動及射撃ニ用キ縱隊ハ主トシテ運動ニ用ウ



第十八回 同様に機関兵四名を後方に置き、各小隊長、銃手長、見習い等を右側に置く。

第一回 (横隊)



第一回 (横隊)

第二十六 整頓完全ナルトキハ各銃及各彈薬箱ハ一線上ニ在リテ正面ト直角ヲ爲シ各小隊長、各銃長及各銃手ハ銃列ト平行ス

第二十七 橫隊ニ在ル銃隊ヲ整頓セシムルニハ基準小隊長ヲ整頓線上ニ位置セシメタル後左ノ號令ヲ下ス

準ヘ

基準ニアラサル小隊長ハ基準小隊長ヲ各銃ハ所屬小隊長ヲ基準トシテ整頓ス

横隊ノ運動

第二十八 前進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

銃隊前へ 進メ

銃隊ハ前進ス銃隊長隊前ニ在リテ銃隊ヲ誘導スルトキハ基準小隊長ハ銃隊ノ中央ヲ銃隊長ノ後方ニ在ラシムル如ク運動シ若シ行進目標ヲ指示セラレタルトキハ之ニ向ヒ直進ス

第二十九 停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

銃隊止レ(膝姿)伏姿

各銃ハ第八ニ從ヒ停止シテ整頓ス(姿勢又ハ伏姿ヲ爲ス)ハ

第三十 斜行進ノ號令及各銃ノ動作ハ第九及第十二從フ

第三十一 背轉チ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

各銃半輪に左へ 進メ

各銃ハ第十二ニ從ヒテ動作シ小隊長ハ新正面ノ定位ニ移ル十八度後二十

第三十二 方向ヲ變換セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)へ廻レ

軸翼銃ハ第十一ニ從ヒ右(左)へ轉回シテ直進シ其他ノ銃ハ捷路ヲ經テ逐次新線ニ就キ行進ヲ續行ス

小角度ノ方向變換ヲ行フニハ軸翼銃ニ豫メ新目標(方向)ヲ示スヘシ

第三十三 各銃ノ間隔ヲ開閉スルニハ基準銃ヲ示シタル後左ノ號令ヲ下

何米突に開け(闇め) 進メ 延長ニ附テ 準日撃(式砲) ヤ示ス
基準銃ハ動カサルカ若クハ續テ行進シ其他ノ銃ハ指示セラレタル間隔ヲ
取り基準ノ方ニ準フテ占位シ若クハ行進ス

縱隊ノ運動

第三十四 直行進及停止ハ第七及第八ニ準シテ施行ス但シ行進ニ在リテ
ハ後續銃ハ正シク先頭銃ニ續行スルモノトス又號令ハ第二十八及第二十
九ニ從フ

第三十五 方向ヲ變換セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)ヘ廻レ 先頭銃ノ轉向ヘ擴大或當十二度
先頭銃ハ第十一ニ從ヒ右(左)ヘ轉回シテ直進シ其他ノ銃ハ先頭銃ノ轉回
セシ所ニ至リ逐次ニ同運動ヲ行フ

第三十六 各銃ノ距離ヲ伸縮スルニハ第三十三ニ準シテ施行ス

第三十七 一ノ隊形ヨリ他ノ隊形ニ移ル

第三十八 停止若クハ行進シアル 橫隊ヲ前面ニ縱隊ニ移スニハ左ノ號令
ヲ下ス

右(左)より前ヘモ進メ 右(左)モニ當利落キハ將期ヤ追々難ヤ計量
或ハ

右(左)翼銃ハ行進ヲ起シ若クハ續テ行進シ其他ノ銃ハ捷路ヲ經テ逐次縱
隊線ニ入り小隊長ハ其定位ニ就クハ計量ノ小刻度ヘ其定位ニ就ク
第三十九 停止若クハ行進シアル 縱隊ヲ前面ニ横隊ニ移スニハ左ノ號令
ヲ下ス

左(右)前酒横隊 進メ

或ハ

何處突に左(右)前面横隊 進メ

先頭銃ハ動カサルカ若クハ續テ行進シ其他ノ銃ハ捷路ヲ經テ逐次新線ニ就キ基準ノ方ニ準フニ占位シ若クハ行進シ小隊長ハ其定位ニ就ク

第三十九 停止若クハ行進シアルトキ横隊ヲ右(左)方ニ縦隊ニ、縦隊ヲ右(左)方ニ横隊ニ移スニハ左ノ號令ヲ下ス

各銃右(左)ヘ廻レ

各銃ハ第十一ニ從セテ轉回シ右(左)方ニ縦隊若クハ横隊ヲ作り續テ行進ス

第三十九 解散及集合

第四十 解散及集合ハ第十三及第十四ニ準シテ施行ス

第三十九 射擊

第四十一 射擊ヲ行ハシムルニハ銃隊面ヲ成ルヘク射線ヲ直角ナラシムルヲ良シトス

第四十二 各小隊ハ指示セラレタル範圍内ニ於テ容易ニ効力ヲ期シ得ヘキセノニ對シ射擊ヲ指向スルモノトス而シテ通常ニ銃毎ニ區分シテ指示スルヲ可トス

第四十三 銃隊ノ射擊ハ第十六ニ準シテ施行ス但シ小隊長ハ適當ノ位置ニ占位シ銃隊長ノ射擊號令ヲ復命スルモノトス

第四十四 射擊ノ中止若クハ停止ハ第二十若クハ第二十一ニ準シテ施行ス

第四十五 機関銃ノ射擊ハ連續射擊ヲ用ウルヲ常トス然レトモ彈着點ニ由リ照尺ヲ選定セントスルトキ若クハ特別ノ狀況ニ在リテハ連數ヲ限定シテ射擊セシムルヲ可トスルコトアリ

第四十六 機關銃射擊ニ於ケル弾薬ノ節用ハ速ニ所望ノ効果ヲ收メテ直ニ射擊ヲ中止スルニ在リ而シテ此要求ヲ充タシ得ルハ良好ナル射擊指揮ト銃手ノ沈着ト熟練トニ依ルモノトス

第二章 乗馬教練

總則

第四十七 乗馬教練ニ在リテハ銃隊ナシテ銃隊長ノ手裡ニ存シ規定ノ運動ヲ迅速確實ニ施行シ騎兵トノ共同動作殊ニ迅速ニ射擊ニ移ルノ動作ニ習熟セシムルヲ要ス

第四十八 乗馬教練ハ銃隊ノ爲ニ運動ヲ規定シタルモノナリト雖單銃及小隊ニ於テモ亦本章ニ準シ教練ヲ施行スヘシ但シ號令ハ徒步教練ニ準ス

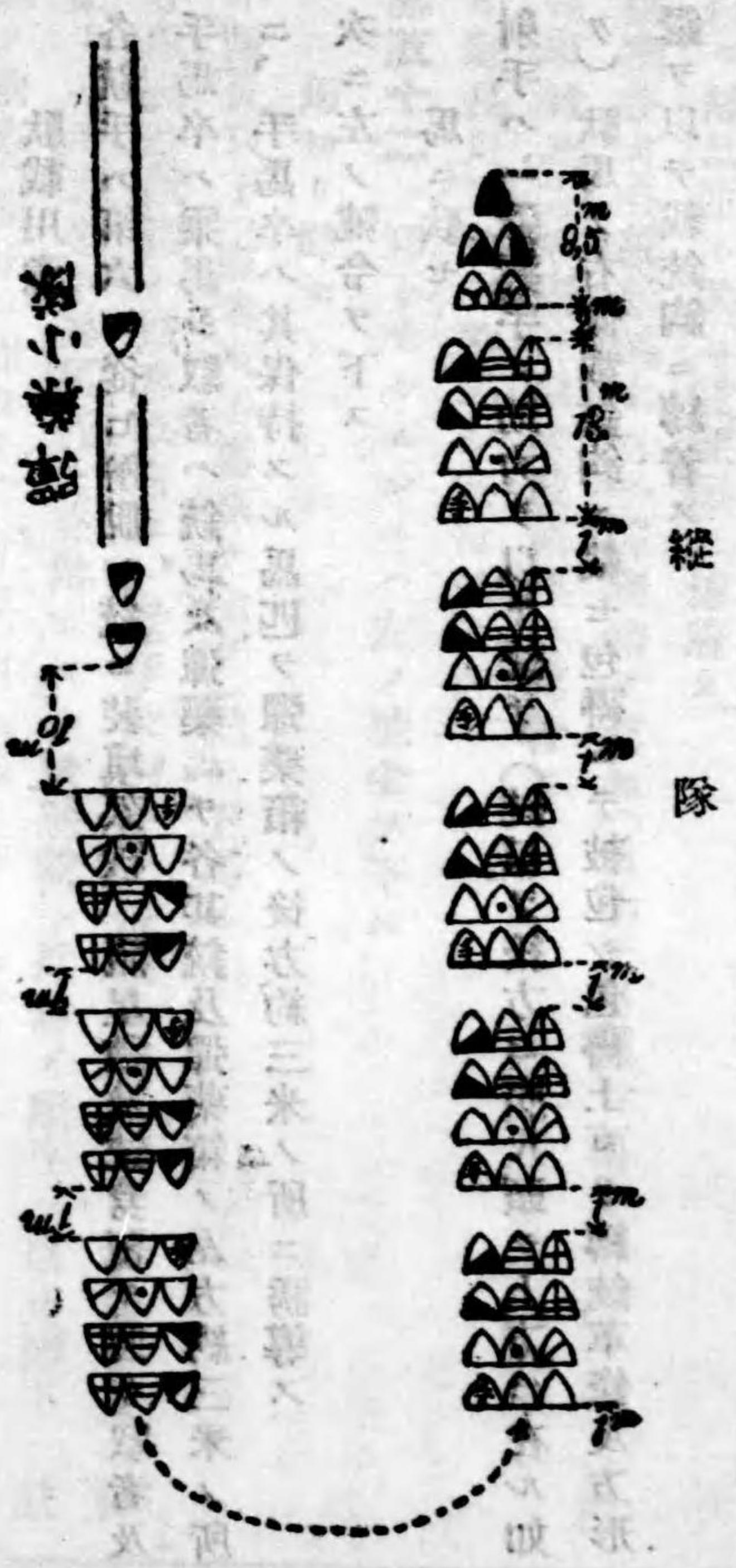
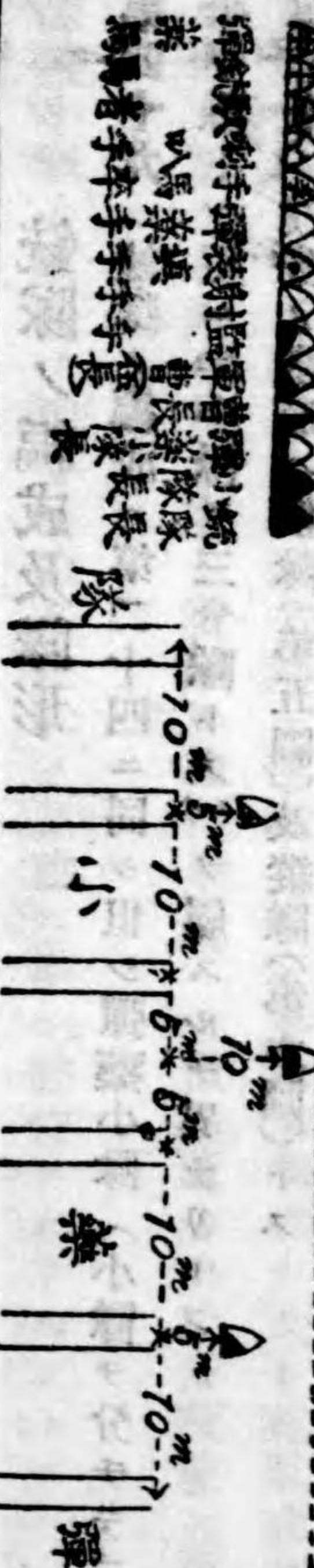
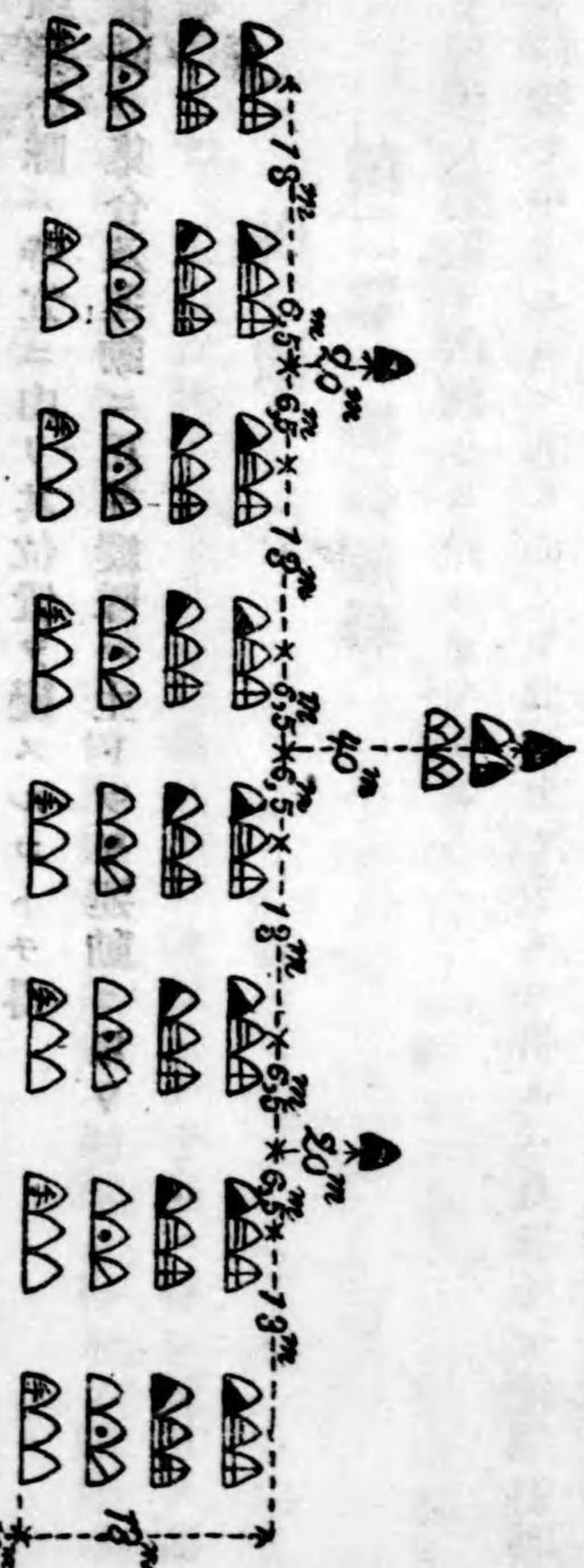
弾薬小隊ハ其長ノ號令ニ由リ銃隊ノ運動ニ準シ動作スヘキモノトス

銃隊ノ編成及隊形

第四十九 銃隊ノ編成ハ第二十四ニ同シ但シ弾薬小隊（小隊ヲ分チテ二半小隊トシ更ニ半小隊ヲ三分隊トズ）ヲ屬スルヲ異ナリトス

第五十 銃隊ノ隊形ハ横隊（第五圖）及縱隊（第六圖）トス
弾薬小隊ハ時宜ニ由リ其位置ヲ變スルコトナ得
横隊ハ集合及運動ニ用ヰ縱隊ハ主トシテ運動ニ用ワ

隊 橫 圖 第 五



第十一 步兵及銃下二、三等之其隊形を圖セシム也

參謀參謀

第五十一 駄載セシムルニハ先ツ其準備ヲ爲サシム之カ爲左ノ號令ヲ下ス

駄載用意

各銃手ハ第六ニ從ヒ解脫シ銃ニ裝填架被、照星被及銃身覆ヲ裝シ駄載者及手馬卒ハ乘馬シ駄載者ハ銃馬及彈藥馬ヲ各其銃及彈藥箱ノ左方約三米ノ所ニ、手馬卒ハ其保持スル馬匹ヲ彈藥箱ノ後方約三米ノ所ニ誘導ス

次ニ左ノ號令ヲ下ス

馬ニ駄セ

射手ハ一彈藥手ノ助力ヲ以テ銃ナ（銃口ヲ後方ニ照尺頭ヲ上方ニ在ル如ク）駄馬ノ右側載銃鈎ニ載セ包縛ニテ被包シ包縛上ヨリ縛銃革條及方形環ヲ以テ載銃鈎ニ縛着ス

監手ハ先ツ屬品匣ヲ駄馬ノ載架匡上ニ載ス裝填手ハ折疊シタル三脚架（架頭ヲ前方ニシ）ヲ屬品匣ノ上ニ載セ包縛ニテ被ヒ縛架革條及方形環ヲ以テ屬品匣ト共ニ載架匡ニ縛着ス

彈藥手ハ各載箱匡上ニ一彈藥箱ヲ載セ（負革ヲ外側ニ面セシムル如ク）縛箱革條及方形環ヲ以テ載箱匡ニ縛着ス

小隊長以下總テ乘馬シ定位ニ就ク

第五十二 卸下セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

馬ヨリ卸セ

小隊長以下（駄載者及手馬卒ヲ除ク）總テ下馬ス

小隊長及銃長ハ銃馬駄載者ニ、監手及射手ハ彈藥馬駄載者ニ、裝填手及各彈藥手ハ手馬卒ニ其馬匹ヲ交附シタル後駄載ト反對ノ順序ヲ以テ卸下シ銃馬ノ前方（縱隊ニ在リテハ右方）約五米ノ所ニ第五ニ從ヒ銃ヲ組立テ屬品匣及彈藥箱ヲ定位ニ置ク

小隊長以下總テ定位ニ就ク

要スレハ一名ノ下士ナシテ銃隊ノ手馬ヲ指揮セシム

第五十三 橫隊ニ在ル銃隊ヲ整頓セシムルニハ第二十七ニ準シテ施行ス

整頓

第五十四 橫隊ノ直行進、停止、斜行進、背轉及間隔ノ開閉ハ第二十八乃至第三十三ニ準シテ施行ス但シ方向變換ヲ行フニハ軸翼銃ハ常歩ヲ以テ回轉シ續テ行進ス其他ノ銃ハ停止或ハ常步行進間ニ在リテハ速歩其他ノ歩度ニ在リテハ現在ノ歩度ヲ以テ新線上ニ到リ常歩ニ移ルモノトス又間隔開閉ノ爲歩度ノ適用ハ騎兵操典改正草案第二編ノ規定ニ從フヘシ

縱隊ノ運動

第五十五 縱隊ノ直行進、停止及方向變換ハ第三十四及第三十五ニ準シテ施行ス

一ノ隊形ヨリ他ノ隊形ニ移ル

第五十六 橫隊ヨリ縦隊ニ縦隊ヨリ横隊ニ移スニハ第三十七乃至第三十九ニ準シテ施行ス但シ歩度ノ適用ハ騎兵操典改正草案第二篇ノ規定ニ從フヘシ

第二篇 戰鬪

第五十七 機關銃ハ發射速度ノ迅速ナルト集束彈道ノ凝集セルトニ由リ熾盛ナル火力ヲ小區域ニ集中シ速ニ穿貫的効力ヲ奏スルモノトス故ニ機關銃ヲシテ持久的射擊ヲ爲サシムルカ如キハ大ナル誤用トス
第五十八 機關銃ハ概木騎兵ノ行動シ得ル土地ニハ到ル所隨從シ得ヘク駄馬ヨリ卸下スルトキハ徒步兵ノ用キ得ル遮蔽物ハ總テ之ヲ利用シ得ルモノトス

第五十九 能ク遮蔽セル敵ノ散兵線若クハ機関銃ニ對シテハ十分ニ其位置ヲ確認セルトキニアラサレハ戰闘セサルモノトス蓋シ斯ノ如キ目標ニ對シテハ命中成果ニ比シ彈薬ノ消費大ナレハナリ
夜間ノ射擊ハ晝間ニ於テ某點ニ照準シアルトキ及火光ニ由リ目標ノ照明セラレアルトキニ限り効果ヲ收メ得ルモノトス

第六十 機関銃ハ騎兵ノ密集襲撃ニ對シテハ著シキ効力ヲ有スルモノトス此際特ニ沈着シテ射擊ヲ行ヒ火力ヲ全線ニ分ツヲ要ス

第六十一 機関銃ハ砲兵ニ代用シ又ハ遠距離ニ在リテ敵砲兵ト威力ヲ競フヲ以テ自己ノ任ト思惟スヘカラスノ如キハ徒ニ彈薬ヲ浪費スルニ過キサルモノナリ

然レトモ容易ニ接近シ得ルトキ若クハ特ニ其翼側ヨリ近ク射擊シ得ル場合ニ在リテハ之ニ對シテ有利ニ戰闘スルコトヲ得ヘシ

第六十二 機關銃隊ハ小隊以下ニ分割セスシテ使用スルヲ通則トス然レトモ要スレハ二銃毎ニ分割スルヲ得一銃毎ニ分割シテ使用スルハ特別ノ場合ニ限ルモノトス

第六十三 戰闘準備ヲ整ヘアル機関銃ハ自衛力大ナルヲ以テ地形蔭蔽セルトキ及夜間又ハ濃霧ノトキ等通視不十分ナル場合ニ於テノミ特ニ掩護隊ヲ要スルモノトス

第六十四 機関銃ヲ使用スルノ時機ハ戰闘ノ目的及現時ノ狀況ニ由リテ決定セラルモノトス故ニ之ヲ適當ニ使用スルハ銃隊ヲ屬セラレタル部隊長ノ任トス然レトモ時トシテ其使用ニ關シ高級指揮官直ニ之ヲ命スルコトアリ

第六十五 銃隊長ハ戰闘加入ニ先ダチ機ヲ失セス所屬指揮官ヨリ戰闘ニ關スル必要ノ命令ヲ受クルモノトス然レトモ自己ノ責任トシテ一般ノ狀

況ニ鑑ミ機關銃ヲ適當ニ使用スヘキ方法並ニ時機ヲ探知スルヲ要ス
第六十六 機關銃ノ射擊陣地ハ射擊効力ヲ顯ハスニ便ニシテ且遮蔽シア
ルヲ要ス而シテ八銃ヨリ成ル一隊ノ正面幅ヲ約百二十米ヨリ超過セシメ
サルヲ可トス

第六十七 彈薬小隊ノ位置ハ地形ヲ利用シ爲シ得ル限り射擊陣地ニ接近
シアルヲ要ス若シ其距離百米ヲ超過スルトキハ適當ニ射擊ヲ持續スルコ
ト難シ故ニ若シ此位置ニ駄馬ヲ招致スルコト困難ナルトキハ其彈薬ノミ
ヲ陣地ニ接近セシムルヲ努ムヘシ

第六十八 射擊陣地ニ進入スルニ方リ諸動作ハ極メテ迅速ナラシメ射擊
開始ノ時機ヲ遲緩セシムルコトナキヲ要ス然レトモ戰鬪ノ目的及狀況ノ
許ス限リハ成ルヘク遮蔽物ノ後方ニテ卸下シ臂力ヲ以テ搬送スルヲ可ト
ス

進入ノ際採ルヘキ歩度及卸下スルノ時機ハ主トシア戰鬪ノ目的、狀況及
地形ニ關スルモノトス

第六十九 銃隊長ハ射擊陣地ニ其銃隊ヲ部署シ射擊指揮ニ便利ナル位置
ニ占位シ與ヘラレタル指示ニ從ヒ若クハ獨斷ヲ以テ射擊目標ヲ規定シ照
尺及射擊ノ種類並ニ發射ヲ令ス又射擊間常ニ射擊効力ヲ觀測シ敵ノ動靜
ニ注意シ及使用シ得ヘキ彈薬ヲ顧慮シ以テ射擊ノ應用ヲ適切ナラシメ又
彈薬小隊ニ所要ノ命令ヲ與ヘテ銃隊ト適當ナル關係位置ヲ保タシメ且絶
エス彈薬ノ補充ニ注意スルヲ要ス

第七十 小隊長ハ指示セラレタル位置ニ其小隊ヲ配備シ銃隊長ノ號令ヲ
傳達シ各銃ノ射擊區域ヲ定メ射擊ノ操作殊ニ目標ノ理解ヲ監視シ彈薬ノ
手段ヲ盡スヲ要ス

費消ニ關シ其責ニ任シ要スレハ射擊ヲ中止セシム又絶エス射擊効力ヲ觀測シ敵ノ動靜及銃隊長ニ注意スルヲ要ス

第七十一 銃長ハ適當ナル位置ニ其銃ヲ据ヘ要スレハ銃身高ヲ規定シ集束彈追ノ濃密部ヲ目標ニ導キ且武器ノ正確ナル使用就中照尺ノ裝置及各銃手命令ノ實行ニ關シ其責ニ任ス殊ニ故障ノ發生銃手ノ缺損ニ際シ速ニ之ヲ整理シ以テ射擊ヲ中絶セサルコトニ努力スヘキモノトス

第七十二 手馬ヲ指揮スル下士ハ銃隊長ノ命令ヲ受ケ手馬ヲ適當ノ位置ニ誘導シ常ニ銃隊長トノ連絡ニ注意スルヲ要ス

第七十三 彈薬小隊長ハ通常銃隊長ノ命令ヲ受ケ其小隊ヲ適當ノ位置ニ誘導シ常ニ銃隊ト連絡ヲ保チ彈薬ノ補充ニ注意シ假令命令ナキモ銃隊ノ運動ニ隨伴シ而シテ位置ヲ變換スル毎ニ之ヲ銃隊長ニ報告スルモノトス

第七十四 兵卒ハ敵ノ猛烈ナル集團火ヲ被ムル場合ニ在リテモ堅忍不拔能ク沈着シテ業務ニ服シ殊ニ銃手ノ大部ヲ損失スルモ決シテ喪心疑惧スルコトナク假令最後ノ一人トナルモ多方手段ヲ盡サハ尙ホ有効ニ銃ヲ操作シ得ルモノナルコトヲ銘心スヘシ

第七十五 徒歩戰ニ於ケル攻擊ニ在リテハ機關銃ハ騎兵部隊ニ依リ掩護セラレ成ルヘク蔭蔽シテ有効射程マテ前進シ全隊不意ニ射擊ヲ開始スルヲ努ムヘシ此際敵制セル位置若クハ側方ヨリ敵ヲ射擊スルヲ得ハ殊ニナル効果ヲ收メ得ヘキモノトスノ如キ位置若シ近距離内ニ在ルトキハ爾後陣地ヲ變換セサルヲ利アリトス

地形若シ蔭蔽シテ敵ニ接近スルヲ許ササルトキハ騎兵及騎砲兵トノ共同動作ヲ以テ有効射程マテ逐次躍進シ猛射ニ由リ敵ヲ擾亂セシムルコトヲ努ムヘシ

狀況ニ由リ機關銃ヲ使用セサルトキハ後方待機ノ位置ニ在ラシムルヲ良

シトス

第七十六 徒歩戦ニ於ケル防禦ニ在リテハ機關銃ヲ最初ヨリ第一線ニ配置シ一定ノ任務ヲ負擔セシムヘキ力或ハ全部若クハ一部ヲ後方待機ノ位置ニ在ラシムヘキカハ戰闘ノ目的、狀況・地形及銃數ニ顧スルモノトス而シテ防禦ニ於テハ小隊以下ニ分割シテ使用スルヲ要スルコト屢之レアリ

敵ノ接近スヘキ道路ヲ扼守シ若クハ陣地前ニ於ケル狹隘ヲ掃射セシムル等ノ場合ニ在リテハ最初ヨリ陣地ニ就カシムルコト多シ

防禦地區ノ兩側又ハ凸出部ニ機關銃ヲ配置スルトキハ比隣ノ空隙ヲ掃射シ若クハ戰闘線前ノ死角ヲ側防スルニ便ナリ敵砲兵ノ目標ト爲リ易キ位置ハ成ルヘク之ヲ避クルヲ要ス

時間及手段ヲ有スルトキハ機關銃ノ使用ヲ顧慮シ陣地ノ各部ニ豫メ掩體

ヲ構築スルヲ要ス若シ之カ爲時間ヲ有セサルトキト雖少クモ敵ノ目標ヲ遮キル處置ヲ施シ日射界ヲ清掃シ距離ヲ測量シ置クヘシ又要スレハ暗夜若クハ濃霧ノトキ等通視不十分ナル場合ニ於テモ射擊ニ支障ナカフシムル如ク處置シ置クコト緊要ナリ

第七十七 戰闘勝利ヲ得タルトキハ機關銃ハ速ニ射擊ニ便利ナル位置ニ進出シ射擊ヲ以テ敵ヲ追撃シ且敵ノ恢復攻撃ニ備フヘシ此際後方ニ在ル駄馬ハ決意前進スルヲ要ス攻撃奏功ノ瞬時ニ於ケル機關銃ノ勇敢ナル動作ハ敵ヲシテ潰亂ニ歸セシメ敏速ナル彈薬ノ補充ハ追撃ノ成果ヲ一層大ナラシムルモノトス

第七十八 戰闘不利ナルニ方リ機關銃ハ極力騎兵ノ退却ヲ收容スルコトヲ努ムヘシ

騎兵機關銃操典草案 終

附 錄

駢馬馭法教練

總 則

第一 駢馬馭法教練ニ在リテハ馬術ヲ基礎トシ各種ノ歩度及諸種ノ地形ニ於ニ駢馬諸般ノ運動ヲ行フニ習熟セシムルヲ要ス

駢馬具ノ装脱

第二 駢鞍及勒ノ装脱ハ馬術教範第一部水勒及鞍ノ装法ニ準據スヘシ但シ其異ナル所左ノ如シ

腹帶ヲ装スルニハ帶端ノ細革條ヲ左方ノ環ニ數回通シテ之ヲ締メ其餘長ヲ二折ト爲シ之ヲ卷キ締ムヘシ
腹帶ヲ締メタル後勒及鞍ヲ装ス

勒ヲ装シタル後轡ヲ掛轡鉤ニ控着ス

馬匹ノ誘導及駢繫

第三 徒歩ニテ馬匹ヲ誘導スルニハ駆者ハ駢馬ト乘馬トノ間ニ在リテ右手ヲ以テ駢馬ノ牽轡ヲ握リ左手ヲ以テ馬術教範第一部大勒轡ヲ以テ水勒教練ノ復習ニ示ス要領ニ據リ乗馬ノ小勒轡ヲ執ル

第四 駢馬ヲ駢繫スルニハ駆者ハ馬ニ面シ乘馬ノ轡ヲ右臂ニ通シ牽轡ヲ駢馬ノ口ヨリ約二米ノ所ニ於テ曲折シ左手ニ曲折部ヲ執リ之ヲ乘馬鞍ノ駐環ニ挿シ締環ヲ作リ右手ヲ以テ其端末ヲ更ニ曲折シ之ヲ締環ニ通シ左手ヲ以テ牽轡ヲ引き締メ次ニ乗馬ノ左側ニ到リ馬術教範第一部大勒轡ヲ以テ水勒教練ノ復習ニ示ス要領ニ準シ乗馬ノ小勒轡ヲ執ル

馬列ノ編成、分解及解散

第五 駢馬ノ整列ハ馬術教範第一部馬場内ノ整列ニ準シテ行フ但シ各乘

馬ノ間隔ハ四米トス

第六 馬列ノ分解及編成ハ馬術教範第一部蹄跡行進ノ分解及編列ニ從ヒ施行スヘシ

第七 馬列ヲ解散セシムルニハ下馬セシタル後左ノ號令ヲ下ス
解れ 進メ

馴者ハ駢繫ヲ解キ解散ス

韁及鞭ノ保持法

第八 馴者ハ馬術教範第一部大勒韁及小勒韁ノ保持法ニ據リ左手ニ乘馬ノ大勒韁ヲ執リ右手ヲ鞭ノ約腕ニ通シテ鞭柄ヲ牽韁ト共ニ握リ勒ヲ輕タ馬口ニ感セシムル如ク牽韁ノ長サヲ定メ肘ヲ少シ曲ケ拳ヲ兩馬ノ間に定メ左拳ヨリ稍前方ニシ鞭頭ヲ高ク左方ニ向ケ其索端ヲ右手ニ保ツ

下馬スルニハ駄馬ノ牽韁ヲ放チテ行ヒ下馬シ終レハ鞭柄ヲ乘馬ノ左鞍囊ノ革條ニ挿シ其索端ヲ以テ之ヲ縛ス

駢馬馴法

第九 駢馬馴法ハ馬術教範第一部大勒教練ト同號令同要領ニ據リ乘馬下馬、蹄跡行進中各種步度ヲ以テスル行進、駐立、步度ノ變換伸縮、手前變換、輪乘、卷乘及野外騎乘ヲ行フ

第十 牽韁及鞭ノ駄馬ニ對スル効驗ハ恰モ韁及脚ノ乘馬ニ於ケルカ如シ鞭ヲ扶助トシテ使用スルニハ牽韁ヲ感セシムルコトナク右拳ヲ外方ニ廻シ爪ヲ上ニシ同時ニ索端ヲ放チ右腰ヲ輕打ス懲戒ノ爲ニハ牽韁ヲ縮メ之ヲ左手ニ合シ右腰ヲ強打ス

駄馬ニ運動ヲ豫知セシムルニハ右手ヲ其頸ニ近ヅケ之ヲ舉ク又駄馬ニ運動ヲ起サシムルトキ及歩度ヲ増伸セシムルトキハ右手ヲ下ケ要スレハ鞭ヲ用ウ

附 錄 駢馬馭法教練

四十二

行進間駢馬ヲシテ歩度ヲ減縮シ若クハ駐立セシムルニハ右手ヲ其頸ニ近ツケ牽韁ヲ以テ徐ニ之ヲ制ス駢馬過度ニ前出スルトキモ亦同要領ニ準シテ操作ス

轉回ニ方リテハ外方馬ヲシテ歩度ヲ伸ハシ内方馬ノ運動ニ從ハシムヘシ駢馬肩ヲ内方ニ偏スルトキハ右拳ヲ以テ強ク其左頸側ヲ壓ス駢馬腰ヲ外方ニ偏スルトキモ亦同要領ニ據リ肩ノ位置ヲ正シ要スレハ鞭ヲ右腰ニ加フヘシ

附 錄 終

第一 機關銃射擊教範草案

陸普第三六四一號

通牒

明治四十一年七月二十四日

陸軍省副官 立花小一郎

一機關銃射擊教範草案

右刻成二付及配布候也

機關銃射擊教範草案案目次

緒言

- 第一章 射擊ニ關スル學理
- 第二章 各官ノ任務
- 第三章 射擊豫行演習
照準
- 照尺ノ用法
- 第四章 教練射擊
- 第五章 戰鬪射擊
- 第六章 標的及彈藥

一
七 六 四 四 二 二 二 一

機關銃射擊教範草案案目次終

機關銃射擊教範草案案

緒言

第一 步兵隊及騎兵隊ノ機關銃射擊ニ關シテハ本教範草案ニ據リ之ニ明文ナキモノハ總テ歩兵ニ在リテハ歩兵射擊教範改正草案竝歩兵機關銃操典草案ニ騎兵ニ在リテハ騎兵射擊教範改正草案竝騎兵機關銃操典草案ニ準スヘキモノトス但シ狹窄射擊、名譽射擊、檢閱射擊及試驗射擊ハ之ヲ施行セス

第一章 射擊ニ關スル學理

第二 機關銃ノ射擊ニ關スル學理ハ歩兵射擊教範改正草案ニ準スルモノトス但シ一銃ノ連續射擊ニ於ケル被彈面ノ大サハ概ネ小銃ノ部隊射擊ニ於ケルモノト大差ナシ

第二章 各官ノ任務

第三 銃隊長以下ハ步兵ニ在リテハ步兵射擊教範改正草案第二十五ニ準シ騎兵ニ在リテハ騎兵射擊教範改正草案第二十五ニ準シ任務ヲ施行スルモノトス

第二章 射擊豫行演習

第四 射擊ノ姿勢及裝填ハ機關銃操典草案ニ從フヘシ

照 準

第五 一點ニ射擊ヲ行フ爲照準ヲ爲スニハ豫メ兩前脚ノ踵鐵位置ヲ正シク水平ニシ射手ハ射擊ノ姿勢（歩兵機關銃操典草案第十九、騎兵機關銃操典草案第十五）ヲ取り右手ヲ以テ方向緊定桿ヲ握リ駐子ト銃耳托架ノ鋸齒部トノ吻合ヲ緩メ之ヲ左方ニ旋回シ銃耳托架ト架頭トノ接合ヲ解キ次ニ用心鐵ノ下部ヲ握ル

左手ヲ以テ解脱子ヲ約九十度前方ニ旋回シ（三脚架ノ位置ヲ變換スルコトナク他方向ニ迅速ナル照準ヲ要スル場合ニハ解脱子ヲ先ツ約百八十度前方ニ旋回シ銃口ヲ概略所望ノ方向ニ指向シタル後之ヲ約九十度後方ニ旋戻（スルヲ異リトス）歎弧轉輪ヲ前後ニ旋回シツツ照準線ヲ照準點ノ下際ニ指向シ解脱子ヲ舊位ニ旋戻シ次ニ床尾ノ下端ヲ握ル

右手ヲ以テ方向緊定桿ヲ右方ニ旋回シ銃耳托架ヲ架頭ニ固定シ而シテ右手ヲ舊位ニ復ス

第六 橫方向ノ薙射ノ爲照準ヲ行フニハ通常目標幅ノ一端ニ第五ニ示ス照準ヲ爲シ（方向緊定桿ヲ右方ニ旋回スルコトナク）次ニ照準線ヲ他端ニ移動シ爾後此ノ要領ヲ反覆施行スルモノトス

第七 縦方向ノ薙射 爲照準ヲ行フニハ通常目標ノ下際ニ第五ニ示ス照準ヲ爲シ（解脱子ヲ約百八十度前方ニ旋回シ置ク）次ニ照準線ヲ上

際ニ移動シ爾後此ノ要領ヲ反覆施行スルモノトス

第八 駐螺桿ヲ旋回シテ行フ射擊ハ右手ニテ駐螺桿ヲ緩メ然ル後第六若ハ第七ニ示ス要領ニ從ヒ照準スルモノトス

照尺ノ用法

第九 表尺ニハ二百米ヨリ二千米ニ至ル毎百米ニ分畫ヲ設ケ偶數距離ニ應スル分畫ニハ數字ヲ刻ス

表尺ヲ裝スルニハ右手ノ拇指ト食指及中指トヲ以テ表尺轉輪ヲ前後ニ旋回シ表尺希望ノハ畫ヲ正確ニ裝置ス

第四章 教練射擊

第十 教練射擊ハ銃長以下左表ノ順次ニ據り施行スヘシ

教練射擊習會表

					順次會習	距離	標的	發射姿勢	射法	命中標準	摘要	要
六	二五	的畫區	五二〇〇	的圈	一一〇〇	一〇〇	的標	彈射發	射	命中標準	摘要	要
云	膝	云膝	六二五	同	二五	二五	同	彈射發	射	命中標準	摘要	要
保	連	保連	七二五	同	二五	二五	同	彈射發	射	命中標準	摘要	要
彈	橫	橫薙射	八二五	同	二五	二五	同	彈射發	射	命中標準	摘要	要
鋏	連	連	九二五	同	二五	二五	同	彈射發	射	命中標準	摘要	要
二	個	二個	一〇二五	同	二五	二五	同	彈射發	射	命中標準	摘要	要
使	用	使用	一一二五	同	二五	二五	同	彈射發	射	命中標準	摘要	要
射	*	射	一二二五	同	二五	二五	同	彈射發	射	命中標準	摘要	要
			命中區數	命中標準	摘要	要						
五			二七點	六右	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	命中標準	摘要	要
			第一保彈鋏ノ前端ニ八發	第二保彈鋏ノ前端ニ八發	第三保彈鋏ノ前端ニ八發	第三保彈鋏ノ前端ニ八發	第三保彈鋏ノ前端ニ八發	第三保彈鋏ノ前端ニ八發	第三保彈鋏ノ前端ニ八發	命中標準	摘要	要
			第一保彈鋏ノ後端ニ十二發	第二保彈鋏ノ後端ニ十二發	第三保彈鋏ノ後端ニ十二發	第三保彈鋏ノ後端ニ十二發	第三保彈鋏ノ後端ニ十二發	第三保彈鋏ノ後端ニ十二發	第三保彈鋏ノ後端ニ十二發	命中標準	摘要	要

七三〇〇的圈云委伏（連射續射）

一二二點第五習會ニ同シ

六二十

八	二五的區	命中區畫數	第一保彈鋏ノ後端ニ九發
八	二五的區	命中區畫數	第一保彈鋏ノ後端ニ九發
八	二五的區	命中區畫數	第一保彈鋏ノ後端ニ九發
八	二五的區	命中區畫數	第一保彈鋏ノ後端ニ九發

備一 命中成績ノ調査ハ各射手毎ニ射擊結了後之ヲ行フモノトス
考二 區畫のノ區畫界線ニ命中セシモノハ一區畫ノ命中トス

第十一 縱方向ノ薙射ハ危險ノ顧慮上教練射擊ニ在リテハ之ヲ行ハス

第五章 戰闘射擊

第十二 戰闘射擊ノ目的ハ勉メテ實際ニ近キ狀態（距離及目標等）ニ
於テ良好ナル射擊効果ヲ發揚シ得ル如ク射擊教練ノ完成ヲ期スルニ在リ
第十三 戰闘射擊ハ獨立シ若ハ他部隊ト連合シテ之ヲ行ヒ而シテ連合
シテ之ヲ行フトキハ射擊効力ノ混同セサル如ク注意スルヲ要ス

第六章 標的及彈藥

標的

第十四 標的ノ種類左ノ如シ

- 一 圈的（步兵及騎兵射擊教範改正草案ニ同シ）
- 二 區畫的

第十五 區畫的ハ高サ一米六十五、幅ニ一米ノ標的板ニ高サニ十五珊米、
幅二十珊米ノ區畫十個ヲ畫キタルモノニ二個ヲ併列シタルモノトス（附圖）
標的ノ左右ニ於ケル彈丸散布ノ形況ヲ知ラシムル爲適宜ノ標的ヲ連接ス
ルヲ利トスルコトアリ

彈藥

第十六 射擊演習ノ爲毎年銃數ニ由リ支給スル彈藥ハ步兵ニ在リテハ
各銃二千百七十發、騎兵ニ在リテハ千五百七十發トス

八

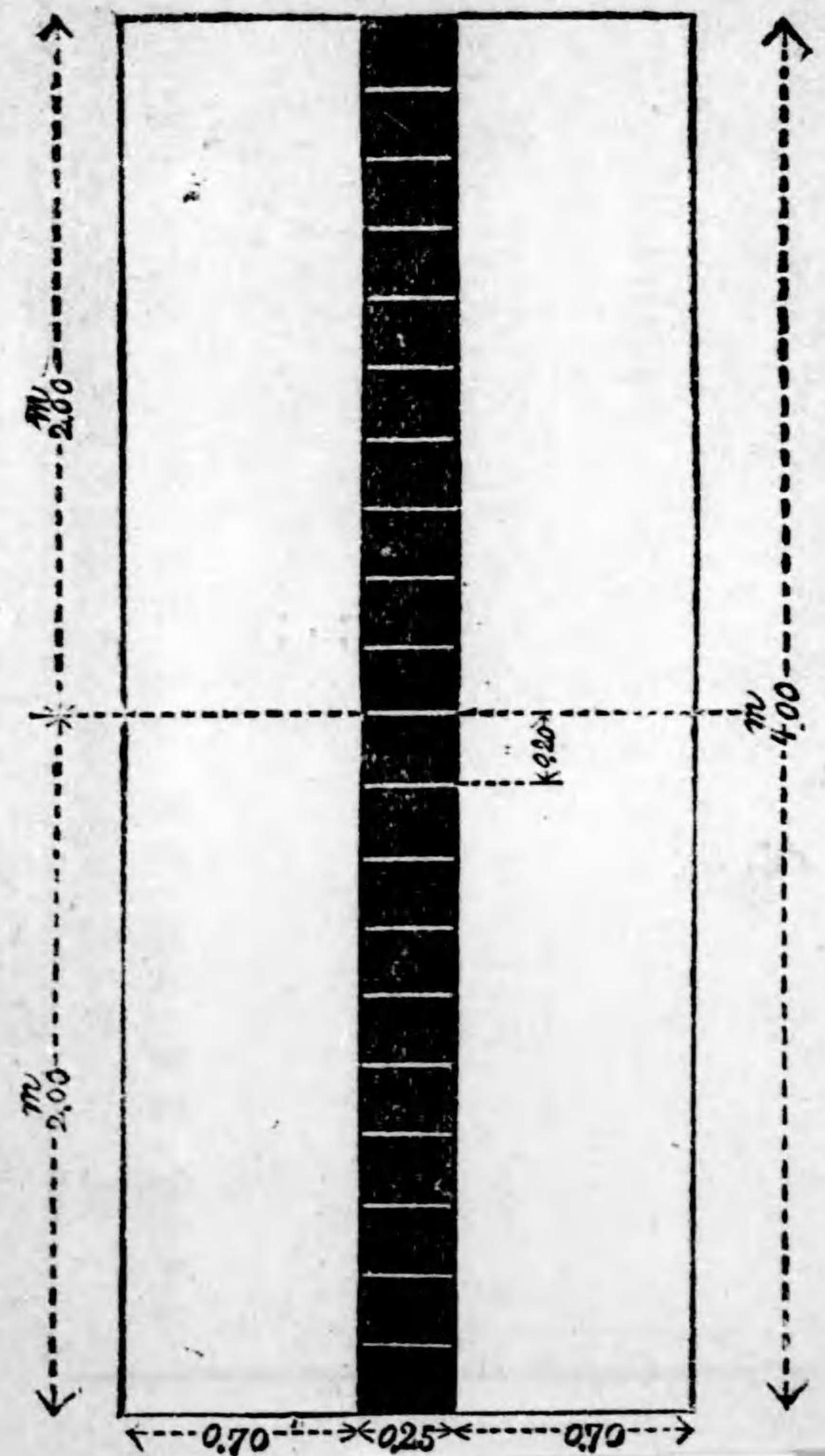
銃數ニ由リ支給セラレタル弾薬ハ概木左ノ區分ニ從ヒ使用スヘシ
戰闘射擊ノ爲各銃ニ三百發ヲ殘餘ノ弾薬ハ教練射擊及試射等ニ使用スヘ

シ
彈藥

火薬筒キタリ付ス

機動大隊大隊大隊亦或然モ同様
營三三隊水ハ其數十隊を擴張セラルサハ二點セ前後ハ各小隊ノ子母（部隊）
兵十五人其重加ハ高キ一米六十五公尺ニ一車之體加總ニ高キ二十公尺。
（一車之體加總ニ高キ二十公尺）
（一車之體加總ニ高キ二十公尺）

機關銃射擊教範草案案終



區
畫

第三 兵器保存要領（機關銃之部）

三八式機關銃

第一章 手 入

第一節 常用品ノ手入

第一款 普通手入

第一條 普通手入ヲ分ナテ、日常ノ手入、射擊前ノ手入、射擊後ノ手入トシ、日常ノ手入ヲ分ナテ毎日行フ手入、一週間ニ少クモ一回行フ手入及使用後行フ手入トス

一 每日行フ手入左ノ如シ

イ 銃ハ分解スルコトナク、布片ヲ以テ輕ク外部ヲ拭ヒタル
後、僅ニ含油セル布片ニテ鐵部ニ塗油スヘシ

手入 常用品ノ手入

口 革具ハ刷毛又ハ布片ヲ以テ塵埃ヲ拭淨スヘシ

二 一週間ニ少クモ一回、装填架、床尾、復坐發條、用心鐵、活塞、遊底、横桿、規整子、蹴子、表尺ヲ離脱シテ行フ手入左ノ如シ

イ 銃身ヲ略水平ニ位置セシメ保心筒ヲ尾筒ノ後方ニ裝入シ其ノ駐栓ヲ床尾駐栓孔ニ挿入シテ保心筒テ尾筒ニ結合シタル後布片ヲ纏繞セル洗矢ヲ保心筒ヲ通シテ腔中ニ挿入シ徐ニ之ヲ進退シ旋回洗矢ヲ使用セサルトキハ進退ニ當リ其ノ旋回ニ抵抗セサル如ク洗矢ヲ支持スルヲ要ス然ラサレハ充分纏底ヲ拭淨シ能ハサルノミナラス洗矢ヲ損スルコトアルヘシ舊油ヲ拭淨シタル後保心筒ヲ除キ藥室ニ吻合スル如ク布片ヲ洗矢ニ纏繞シ之ヲ藥室ニ挿入シ旋回シテ舊油ヲ拭淨シタル後洗矢ニ布片ヲ纏ヒ腔中及藥室ニ塗油スヘシ腔中ヲ拭淨スルニ洗矢ヲ使用シ能ハサルトキハ洗

桿ヲ用井銃尾ヨリ手入ヲ行フヘシ又銃尾ヨリ腔中ノ附着物ヲ除去スルコト困難ナル場合ニハ銃口ヨリ手入スルヲ得ルモノトス但シ銃口部ニ手入用具ヲ觸接セシメサルカ如ク銃口部ニ於テ洗桿ヲ布片ニテ保持スヘシ

ロ 尾筒内部、瓦斯唧筒内部、装填架、各部品ヲ復坐發條、用心鐵、安全栓_{引鐵及發條}、遊底_{各部品ヲ離脱ス}、活塞、横桿_{横桿發條}、規整子、各部品ヲ蹴子、表尺ノ舊油ヲ拭淨シタル後塗油スヘシハ銃ヲ三脚架ヨリ離脱シ齒弧駐栓及齒弧駐梁ノ舊油ヲ拭淨シタル後塗油スヘシ

二 明治四十年制定ノ三脚架ハ銃耳托架ヲ旋回シテ照準齒弧及方向緊定鉄ノ舊油ヲ拭淨シタル後塗油スヘシ但シ照準齒弧ノ齒部ニハ稍多量ニ塗油シ又銃耳蓋栓及後脚駐栓ハ舊油ヲ拭淨

シタル後塗油スヘシ

本 明治四十五年制定ノ三脚架ハ銃耳托架ヲ旋回シテ照準齒弧、方向堅定鉗及昇降軸ノ舊油ヲ拭淨シタル後塗油スヘシ但シ照準齒弧及昇降軸ノ齒部ニハ稍多量ニ塗油シ又三脚架ノ屈折部銃耳蓋栓及其ノ室竝後棍駐栓及其ノ室ノ舊油ヲ拭淨シタル後塗油シ轉把ノ回轉容易ナラサルモノハ治孔螺ヲ離脱シ起動螺室ニ少シク油ヲ注クヘシ

ヘ 屬品匣裝填品ノ鐵部ハ僅ニ含油セル布片ヲ以テ拭淨スヘシト 革具ハ塵埃ヲ拭淨シタル後僅ニ含油セル布片ヲ以テ數回拭摩スヘシ

三 使用射擊セル場 後行フ手入ハ第一號ヲ準用スルノ外左ノ如シ
イ 銃ノ内部ニ塵埃ヲ蒙リ或ハ雨雪等ニ際會シタルトキハ第二

號ニ準シ手入ヲ行フヘシ

ロ 革具ニ汚垢又ハ泥土ノ附著シタルモノハ僅ニ含水セル布片ヲ以テ拭淨シタル後含油布片ニテ稍多量ニ塗油スヘシ

ハ 革具ノ濕潤シタルモノハ乾キタル布片ヲ以テ拭ヒタル後空氣ノ流通良キ場所ニ於テ蔭乾シ其ノ乾カサルニ先チ稍多量ニ塗油シ其ノ吸收スルヲ待チ輕ク拭摩スヘシ決シテ日光ノ直射又ハ火氣ニテ乾燥スヘカラス

ニ 革具ヲ連日炎天ノ際使用シタルトキハ稍多量ニ塗油スヘシ射擊前ノ手入左ノ如シ

第二條

- 一 腔中、藥室ヲ叮寧ニ拭淨シ含油布片ニテ塗油スヘシ
- 二 遊底ノ内外部、活塞及尾筒内部ヲ拭淨シタル後塗油スヘシ但シ其ノ塵擦部ニハ稍多量ニ塗油スルヲ要ス

三 油槽ノ刷毛ヲ叮寧ニ拭淨スヘシ

第三條 射擊後ノ手入ハ第一條第二號ヲ準用スルノ外左ノ如シ發鎗ノ防
止並附著爐渣ノ除去ヲ容易ナラシメム方爲射擊後直ニ之ヲ行フヲ可ト
ス若直ニ之ヲ行フコト能ハサルトキハ腔中、藥室其ノ他爐渣ノ附著セ
ル部分ニ稍多量ニ塗油シ置クヘシ

一 腔中、藥室ヲ拭淨スルニハ洗滌用油ヲ浸シタル布片ヲ以テシ且
之ヲ屢取換ヘ布片ニ爐渣或ハ汚物ノ附著セサルニ至リタル後乾キ
タル布片ニテ洗滌用油ヲ除去シ稍多量ニ塗油スヘシ

二 腔中及藥室ニ附著セル爐渣ハ一回ノ手入ニ於テ完全ニ除去スル
コト困難ナルヲ以テ翌日更ニ手入ヲ行ヒ爾後布片ニ汚物ノ全ク附
著セサルニ至ル迄日日行フモノトス。

三 銃身ヨリ瓦斯唧筒ニ通スル瓦斯孔ハ瓦斯唧筒ヲ離脱シタル後銃

線或ハ竹片等ニ布片ヲ巻キ洗滌用油ヲ浸シ支箍下面ヨリ拭淨スヘ
シ但シ鐵線ハ腔中ヲ損傷スルコトアルヲ以テ使用スヘカラス

四 銃身後端ハ適當ナル銅線或ハ竹片等ニ布片ヲ纏ヒ洗滌用油ヲ浸

シ尾筒ノ裝填架ノ室ヨリ拭淨スヘシ

五 尾筒内部ニ附着セル爐渣ハ瓦斯唧筒洗桿ニ洗滌用油ヲ浸シ拭淨
スヘシ

六 瓦斯唧筒ハ支箍ヨリ離脱シ更ニ規整子ヲ脱シ瓦斯唧筒洗桿ニ洗
滌用油ヲ浸シ爐渣ヲ拭淨スヘシ若爐渣ノ除去困難ナルトキハ搔桿
ニテ爐渣ヲ搔除スヘシ

七 遊底活塞又三脚架塗料ヲ施シア
ル部分ヲ除クニ附著セル爐渣ハ布片ニ洗滌用
油ヲ浸シ拭淨スヘシ

八 洗滌用油ニテ爐渣ヲ拭淨シタルモノハ乾キタル布片ニテ洗滌用

油ヲ拭除シタル後稍多量ニ塗油スヘシ

九 三脚架ノ塗料ヲ施シアル部分ニ附著セル爐渣ハ含水布片ニテ拭淨シタル後乾キタル布片ニテ水分ヲ拭除スヘシ

第一款 精密手入

第四條 鐵部ノ甚シク發鏽シタルモノハ該部ニ洗滌用油ヲ注キ若干時ヲ

經テ木片又ハ木賊ヲ以テ徐ニ摩擦シ鏽ヲ除去スルモノトス但シ舊油又ハ汚垢等ノ附著シテ其ノ拭淨困難ナルモノハ洗滌用油ヲ浸シタル布片ヲ以テ拭淨スヘシ

第五條 普通分解ヲ爲ササル部分ノ手入左ノ如シ

一 連發桿ヲ離脱シテ舊油ヲ拭淨シタル後塗油スヘシ

二 油槽ハ分解ヲ行ヒ洗滌用油ヲ以テ洗滌シ汚物ヲ除去シ刷毛ニ油

ノ浸潤ヲ容易ナラシムヘシ

三 明治四十年制定ノ三脚架ハ銃耳托架、銃耳托架駐螺桿、解脫子、齒弧轉輪、齒弧駐爪、方向緊定鉗、方向緊定桿ヲ離脱シテ舊油ヲ拭淨シタル後塗油スヘシ

照準齒弧ハ通常離脱スルコトナク手入スルモノトス

四 明治四十五年制定ノ三脚架ハ銃耳托架、昇降軸緊定桿、銃耳托架駐螺桿、解脫子、齒弧轉輪、齒弧轉輪駐爪、方向緊定鉗、方向緊定桿ヲ離脱シテ舊油ヲ拭淨シタル後塗油スヘシ

照準齒弧、轉把、起動螺、誘導齒輪ハ通常離脱スルコトナク手入スルモノトス

第二節 貯藏品ノ手入

手入 常用品ノ手入

第六條 貯藏セル銃ノ手入ハ常用品精密手入ヲ準用シ拭淨後ハ格納用礪油ヲ塗施スルモノトス

第七條 貯藏セル革具ノ手入ハ常用品精密手入ヲ準用スルノ外左ノ如シ
一 通常毎年一二回適當ナル時期ニ於テ塗油シ之ヲ吸收セシメタル
後拭摩スヘシ
二 発敵セル革具ハ之ヲ拭淨スヘシ又發敵シ易キ期節ニ於テハ屢拭
摩スルヲ可トス
三 新ニ貯藏スル革具ニ給油ヲ要スルトキハ第一號ヲ進用スヘシ

第二章 格 納

第八條 銃ハ三脚架ヲ離脱シ或ハ三脚架ニ裝著シタル儘格納スルモノト
ス但シ銃ヲ離脱シタル三脚架ハ折疊シテ格納スルヲ可トス又前棍及後

棍ハ附著セル革具ノ保存ヲ顧慮シ且塗料ノ剝脱セサル如ク注意シテ格
納スルヲ要ス

第九條 銃身覆、装填架被及昇降軸被ハ結束懸吊スヘシ

第十條 屬品及匣及器具箱ノ收容品中挿布・索繩及遊標尺鞋ハ各別ニ結
束懸吊シ其ノ他ノモノハ適當ナル箱内ニ格納スヘシ但シ屬品匣ノ豫備
品ハ他ノモノト混同スルトキハ銃ノ機能ヲ害スルコトアルヲ以テ他銃
ノモノト混同スヘカラス

第三章 檢 查

第十一條 日常ノ検査左ノ如シ

一 手入ニ就テ拭淨及塗油ノ適否ヲ検スヘシ特ニ注意スヘキ箇所左
ノ如シ

腔中、藥室
圓筒ノ内部及擊莖
尾筒ノ内部
瓦斯唧筒ノ内部

油槽

ヘ照準機

二 分解及結合ニ就テ主トシテ検査スヘキ事項左ノ如シ
イ 引鐵及碍子ハ活塞ニ鉤シ非サルヤ引鐵或ハ碍子ヲ平素活塞
條ヲ衰損セシムルモノトス

ロ 引鐵ハ連發桿ニ鉤シ非サルヤ引鐵ヲ平素連發桿ニ鉤シ置ク
トキハ引鐵發條ヲ衰損セシムルモノトス

ハ 瓦斯唧筒鐸部ノ刻線ト文籠ノ刻線ト一致シアルヤ其ノ刻線
ノトス

レトキハ銃身竝支籠ノ瓦斯孔ト瓦斯
唧筒ノ瓦斯孔ト一致セサルモノトス

二 齒弧轉輪駐爪ノ結合正シキヤ照準齒弧ノ緊定シタルトキ
ハ通常齒弧轉輪駐爪ノ結合
不良ミリ生スルモノトス

ホ 齒弧轉輪駐爪發條蓋ノ結合正シキヤ但シ駐爪蓋ヲ壓セサレ
ハ旋回スルコトナキモノヲ良トス

ヘ 銃身ト尾筒トノ結合ハ正シキヤ但シ尾筒前端ノ刻線ト銃身
後端ノ刻線ト一致シ且其ノ緊定確實ナルモノヲ良トス

ト 諸駐栓ノ結合正シキヤ

チ 融子、表尺、用心鐵、引鐵、安全栓、床尾、床尾駐栓、活
塞、圓筒、擊莖、抽筒子、抽筒子駐栓、裝填架、裝填架駐栓、
油槽、送彈齒輪、碍子、齒止、輪軸、橫桿、橫桿發條、瓦斯
唧筒、瓦斯唧筒駐螺、規整子、規整子套、規整子支爪、架頭
等ノ部品番號ハ尾筒ノ番號ト一致シアルヤ

リ 連發桿發條ト引鐵發條ト相互誤リテ 結合セルコトナキヤ
連發桿發條ハ其ノ力引鐵發條ヨリ甚シク弱キヲ以テ引鐵ニ
之ヲ使用スルトキハ單發射擊ヲ不能ナラシムルモノトス

三

機能ニ就テ主トシテ検査スヘキ事項左ノ如シ

イ 逆鉤及引鐵ノ機能ハ良好ナルヤ但シ單發射擊機能ニ就テハ
射擊ニ際シ行フモノトス又活塞ノ取扱中逆鉤自カラ其ノ位置
ヲ變シ或ハ逆鉤ノ兩側活塞體ヨリ突出スルモノ及引鐵ヲ引キ
之ヲ放チタルトキ活塞ニ復舊セサルモノハ其ノ機能不良ナル
モノトス

ロ 排筒機能ハ良好ナルヤ 遊底ヲ後退シテ蹴子ト圓筒ノ前面ヲ
同一ノ位置ニ置キ蹴子ヲ圓筒ト反對
側ニ壓スルニ當リ圓筒ト蹴子トノ間ニ約一耗五以上ノ間隙ヲ
生スルモノハ排筒機能不充分ナルコトアリ是レ蹴子脚部ノ圓
筒ト觸接スル部分ノ磨
損ニ起因スルモノトス

ハ 圓筒及活塞ハ其ノ前進及後退ニ際シ軋ルコトナキヤ

ニ 方向緊定機能ハ確實ナルヤ但シ昇降軸ヲ下降セシメ或ハ三
脚架明治四十年伏城ノ姿勢ト爲シ方向緊定桿ヲ緊定スルモ銃
ノ左右ニ移動スルモノ或ハ緊定桿ノ把部、後脚ニ觸接スルモ
ノハ機能不良ノモノナルテ以テ緊定補助鉗テ使用スルヲ要ス
ホ 上下照準緊定機能ハ確實ナルヤ緊定機能不良ナルモノハ銃
耳托架ノ鋸齒部磨損シ或ハ
歯弧轉輪駐爪ノ結合ヲ誤
レルニ起因スルモノトス

ヘ 油槽ノ機能ハ良好ナルヤ但シ油槽ハ油槽駐子ニ確實ニ鉤シ
ト 又刷毛ニ油ノ浸潤適當ナルヲ要ス
チ 解脫子駐筈ノ機能ハ良好ナルヤ
リ 三脚架ノ折疊機能ハ良好ナルヤ

四 損傷ニ就テ主トシテ検査スヘキ事項左ノ如シ

イ 撃莖尖頭變形シ非サルヤ但シ變形大ナルモノハ雷管ヲ突破

スルコトアリ

口 圓筒頭部ノ擊莖尖頭室甚シク變形シ非サルヤ 撃莖尖頭室ノ
テ雷管ノ破損ニ起因シ又其ノ變形ハ雷管ノ破
損ヲ惹起シテ益尖頭室ヲ擴大スルモノトス

ハ 抽筒子爪部損傷シ非サルヤ

ニ 門子及門子受ハ破損シ或ハ甚シク磨損シ非サルヤ但シ新ナ
ル擬製彈ヲ藥室ニ裝入シ置キ活塞ヲ除キ遊底ヲ閉鎖スルニ當
リ門子後面ト門子受面間ニ多大ノ遊隙ヲ存シ門子ヲ少シモ壓
スルコトナクシテ深ク門子受面ヨリ沈降スルモノ及左右甚シ
ク觸接不等ナルモノハ不良ナルモノトス

ホ 引鐵、逆鉤、碍子、碍子筈ハ甚シク磨損シ非サルヤ但シ引
鐵、遊鉤ノ磨損大ナルトキハ往往開發機能ヲ害シ碍子、碍子
筈ノ磨損大ナルモノハ一保彈鋏ノ實包ヲ射盡シタル際ニ於テ
活塞前進スルモノトス

ヘ 照星頂ニ打痕ナキヤ

ト 銃身後端ノ彈丸滑走路及其ノ兩側ノ小突梁ハ損傷シ非サル
ナ

チ 門子受ハ動搖スルコトナキヤ但シ門子受ハ尾筒ノ門子受室
ニ堅ク装著シアルヲ良トス
リ 活塞ノ三角準梁ノ後端及長準梁ノ前端甚シク損傷シ非サル
ヤ 損傷セルモノハ裝彈齒輪ノ齒部及齒止ノ齒部ノ磨損或ハ齒
止發條ノ衰損セル爲裝彈齒輪ノ吻合齒ノ該部ニ衝突セルニ
依ル

ヌ 排筒器ハ動搖スルコトナキヤ
ル 裝填架ハ甚シク動搖スルコトナキヤ 動搖スルモノハ主トシ
ハ裝填架ノ駐栓溝ノ磨
損ニ起因スルモノトス
チ 革具ニ擦傷又ハ龜裂ノ箇所ナキヤ

第十二條 ワ 草具ノ縫絲部破綻シ非サルヤ
射撃前ニ於テ主トシテ検査スヘキ事項左ノ如シ

腔中及藥室ニ異状ナキヤ又清潔ニシテ塗油適當ナルヤ
圓筒及尾筒内部ハ清潔ニシテ塗油適當ナルヤ
活塞ノ前進及後退ハ容易ニシテ軋ルコトナキヤ

擊莖尖頭ハ變形シ非サルヤ

油槽内ニ油ヲ充シアルヤ又刷毛ニ油ノ浸潤充分ナルヤ
照準機能ハ良好ナルヤ

保彈鋏ハ異狀ナキヤ又實包ノ位置ハ良好ナルヤ但シ保彈鋏ノ爪部ノ機能不良ナルモノハ實包ノ支持不確實ナル爲射撃ニ際シテ實包浮動シ又保彈鋏右側前端部ノ下方屈折ノ度不充分ナルトキハ裝填チ不良ナラシムルモノトス又實包ノ位置不良特ニ最終ノ彈頭左方ニ偏シアルトキハ彈頭ヲ藥室後面ニ衝突スルコトアリ

第十三條 射撃場ニ於テ主トシテ検査スヘキ事項左ノ如シ

一 射撃開始前及終了後ハ腔中ヲ檢スヘシ

二 始テ射撃ヲ行フ銃或ハ圓筒、活塞ヲ交換シタルモノハ僅少ノ連發射撃ヲ行ヒ適當ナル規整子分畫ヲ定ムヘシ活塞ノ後退運動ハ確得ルヲ度トス而シテ活塞ノ後端床尾ニ衝突シ著シク射手ノ肩部ニ振動ヲ感スルモノ或ハ空薬莢ノ遠ク蹴出セラルモノハ活塞ノ後退活潑ニ失スルノ徵トス活塞ノ後退活潑ニ失スルトキハ實包保彈鋏ノ爪ヨリ浮動シテ裝填ヲ害シ或ハ薬莢蹴出過激ノ爲抽筒子ヲ折損スルニ至ル之ニ反シテ活塞ノ後退不充分ナルトキハ保彈鋏ノ轉移不充分ノ爲實包ノ裝填ヲ害シ或ハ一保彈鋏ヲ射盡シタル場合ニ活塞碍子ニ鉤セサルコトアリ

又擊莖ヲ交換シタルモノハ單發射撃ヲ行ヒ其ノ長短ノ適否ヲ檢スヘシ擊莖長キニ失スルトキハ雷管ノ陷凹部底ニ小孔ヲ穿チ之ニ反シ擊莖短キニ失スルトキハ不發スルカ然ラサレハ雷管ノ中心ニ圓筒ノ擊莖孔ト同大ノ圓孔ヲ穿ツカ又ハ雷管ノ擊針痕破損ニ傾クモノトス而シテ雷管ニ圓孔ヲ穿チタルトキハ同孔ヨリ噴出スル瓦斯ハ擊莖頭及擊莖孔ヲ損シ又ハ雷管ノ斷片圓筒内部ニ附著シテ擊莖ノ前進ヲ妨クルモノトス又擊莖過長ナルトキハ活塞ノ前進ヲ

擊莖部頭部ニテ支阻スルヲ以テ頭部
又ハ脚部ニ於テ折損チ來スモノトス

其ノ機能不良ナルモノハ主トシ
テ活塞後退運動ノ不足ニ起因ス

イ 單發射擊機能ハ確實ナルヤ
ルモノニシテ又稀ニ逆鉤及引鐵鉤部ノ甚シキ磨損或ハ
引鐵ノ磨軋或ハ引鐵發條ノ衰損ニ起因スルコトアリ
ロ 碍子ノ機能確實ナルヤ
機能不良ナルモノハ活塞後退運動ノ
不足、碍子及碍子筒ノ甚シキ磨損或

碍子發條ノ衰損ニ
起因スルモノトス

ト ハ 活塞ノ後退運動適當ナルヤ
ニ 時時蹴出セル空藥莖ニ就キ擊莖ノ過長過短ヨリ生スル雷管
ノ 衝痕ノ狀況及藥莖外面ニ於ケル塗油ノ良否ヲ檢スヘシ
ホ 油槽内ノ油ハ闕乏シ非サルヤ
ヘ 抽筒作用不良ナルトキハ抽筒子ノ機能及給油ノ適否ヲ檢ス
ヘシ

ト 講頭、藥室後面ニ衝突シ或ハ實包、保彈鉢上ニ浮動スルト
キハ活塞ノ後退運動ハ適度ナルヤ又保彈鉢及實包ノ位置ニ異
状ナキヤヲ檢スヘシ

チ 雷管連續不發スルトキハ圓筒ノ擊莖室、活塞ノ尾筒支駐部
或ハ擊莖駐筒ト圓筒トノ間ニ異物介在シ若ハ擊莖頭ニ異狀ナ
キヤヲ檢スヘシ

第十四條 射擊後ニ於テ手入ヲ行ヒタル後主トシテ検査スヘキ事項左ノ

如シ

- 一 手入ハ良好ナルヤ特ニ腔中、藥室及圓筒内部ニ注意スヘシ但シ
附著爐渣ナ全ク除去シ終ルニハ通常數日ヲ要スルヲ以テ此ノ期間
ハ特ニ注意スヘシ
- 二 各部品ニ異狀ナキヤ但シ特ニ腔中及遊底ニ注意スヘシ
- 三 空藥莖ノ蹴出不活潑ナルモノハ排筒機能ヲ檢スヘシ

第十五條 命中不良銃ニ就テ主トシテ検査スヘキ事項左ノ如シ

一 照星及表尺ニ異状ナキヤ

二 銃ハ照準ヲ確定シタルトキ過度ニ動搖スルコトナキヤ 其ノ過度ニ動搖ス

ルモノハ照準歯弧ト銃耳托架ノ照準歯弧室、照準歯弧ト尾筒ノ歯弧駐染、銃耳ト銃耳托架ノ銃耳室、照準歯弧駐栓ト尾筒下面ノ照準歯弧駐栓室、銃耳蓋栓ト銃耳托架ノ銃耳蓋栓室ニ間隙ヲ生シタルニ起因スルモノトス

三 腔中ニ局部膨脹ノ箇所ナキヤ又ハ全體ニ亘リ磨滅シ非サルヤ

第十六條 普通分解ヲ行ハサル部分ニ塗施セル防鏽用脂油効力ノ検査ノ回數ハ主トシテ銃使用ノ景況ニ依リ決定スヘキモノナルモ概毎年二回防鏽脂油効力ノ有無ヲ檢シ手入ノ要否ヲ決定スヘシ

第四章 分解及結合

第一節 普通分解及普通結合

- 一 裝填架油槽ヲ除ク
- 二 床尾
- 三 復坐發條
- 四 用心鐵連發桿ヲ除ク
- 五 遊底及活塞逆鉤除ク
- 六 槓桿
- 七 表尺
- 八 跡子

九 規整子
十 瓦斯唧筒

第十八條 銃ト三脚架ノ離脱ハ左ノ各號ノ順序方法ニ依ル

- 一 銃耳蓋ヲ開放スルニハ左右ノ銃耳蓋栓ヲ旋回シ其ノ把手ヲ上方ニ垂直ニ爲シ之ヲ外方ニ抽脱シ銃耳蓋ヲ充分開クヘシ但シ蓋栓ノ抽脱困難ナルトキハ把手ヲ少シク前後ニ動カシツツ脱スルモノトス
- 二 照準齒弧駐栓ヲ離脱スルニハ左手ニテ尾筒尾部ヲ支持シ右手ニテ照準齒弧駐栓ヲ旋回シ其ノ把手ヲ上方ニ垂直ト爲シ之ヲ外方ニ抽脱スヘシ但シ其ノ抽脱困難ナルトキハ把手ヲ少シク前後ニ動カシツツ脱スルモノトス
- 三 銃ヲ離脱スルニハ銃口ヲ充分垂下シ瓦斯唧筒ノ後部ト尾筒ノ中央部ヲ支持シテ銃耳ヲ其ノ室ヨリ脱シ銃ヲ上方ニ離脱スヘシ

第十九條 銃ト三脚架ノ装著ハ左ノ各號ノ順序方法ニ依ル

- 一 銃ヲ装著スルニハ銃耳蓋ヲ充分開キ瓦斯唧筒ノ後部ト尾筒ノ中央部ヲ支持シ銃口ヲ下ケテ三脚架ノ前方ヨリ銃ヲ三脚架ニ装著スヘシ
- 二 銃耳蓋ヲ閉鎖スルニハ銃耳蓋栓ヲ把手ヲ上方ニ垂直ニシ其ノ室ニ装入シ之ヲ旋回シテ把手ヲ下方ニスヘシ
- 三 照準齒弧駐栓ヲ装著スルニハ照準齒弧ノ頭部ヲ尾筒ノ齒弧駐梁ニ装入シ其ノ駐栓孔ヲ一致セシメ照準齒弧駐栓ヲ把手ヲ上方ニ垂直ニシテ駐梁ニ挿入シ之ヲ旋回シテ把手ヲ下方ニスヘシ

第二十條 装填架ノ分解ハ左ノ各號ノ方法ニ依ル

- 一 離脱スルニハ右手ノ拇指頭ヲ装填架右側後面ニ當テ食指ニテ裝

填架駐栓ノ把手ヲ少シク後方ニ抽出シタル後之ヲ下方ニ離脱シ左手ニテ装填架ヲ左方ニ抽脱スヘシ

二 分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

イ 輪軸頭ヲ下ニシ装填架ヲ臺上ニ立テ之ヲ壓下シ或ハ指頭ニテ輪軸頭ヲ壓シ歎止ヲ旋回シ抽脱スヘシ

ロ 送彈齒輪ヲ落下セシメサル如ク注意シテ輪軸及歎止發條ヲ架ヨリ抽出スヘシ

ハ 送彈齒輪ヲ其ノ室ヨリ離脱スヘシ

ニ 裝填架裏面ヲ上方ニ装填孔ヲ右方ニシ之ヲ兩手ニテ支持シ其ノ兩拇指ニテ碍子ノ脚及鉤部ヲ充分壓下シ之ヲ右方ヘ押シテ其ノ軸ヲ碍子軸室ヨリ脱スヘシ

ホ 碾子發條ヲ戻回シテ碍子ヨリ離脱スヘシ

第二十一條 床尾ヲ離脱スルニハ右手ニテ床尾ノ後部ヲ握リ少シク前方ニ壓迫シ左手ノ食指ヲ尾筒下面ニ添ヘ其ノ拇指ニテ床尾駐栓ノ把手ヲ壓シ百八十度下方ニ旋回シタル後之ヲ左方ニ抽出ス左手ヲ床尾ノ上面ニ添ヘ右手ノ壓迫ヲ緩メツツ徐ニ床尾ヲ後方ニ脱スヘシ但シ駐栓ノ抽出ニ當リ右手ノ指ヲ以テ其ノ抽出部ヲ壓スルトキハ其ノ抽出容易ナルモノトス

第二十二條 復坐發條ヲ離脱スルニハ發條ノ後部ヲ撮ミ抽出スヘシ但シ引鐵・連發桿ニ鉤シアルトキハ發條ハ引鐵ニ軋リ其ノ抽出ヲ妨ケルコトアルヲ以テ注意ヲ要ス

第二十三條 用心鐵ノ分解ハ左ノ各號ノ方法ニ依ル

一 用心鐵ヲ離脱スルニハ右手ニテ用心鐵ノ握把ヲ握リ其ノ食指ニテ引鐵ヲ充分強ク引キ用心鐵ヲ後方ニ離脱スヘシ

二 安全栓及引鐵ヲ離脱スルニハ用心鐵ノ左側面ヲ上方トナシ安全栓ヲ用心鐵ノ握把ト反對側ニ百八十度旋回シテ之ヲ抽脱シ引鐵ヲ用心鐵ヨリ離脱スヘシ但シ引鐵、連發桿ニ鉤シアリタルトキハ之ヲ脱シタル後之ヲ行フヲ要ス

三 引鐵發條ヲ離脱スルニハ發條ヲ戻回シテ引鐵ヨリ脱スヘシ

第二十四條 遊底及活塞ノ分解ハ左ノ如シ

一 遊底及活塞ヲ離脱スルニハ右手ノ指ヲ活塞ノ門子壓筈上面ノ突子ニ鉤シテ活塞ヲ半ハ抽出シ活塞ト共ニ遊底ヲ握リ後方ニ抽脱シ遊底ト活塞ヲ離脱スヘシ但シ活塞ノ抽出困難ナルトキハ横桿ニ依リ抽出スヘシ

二 遊底ノ分解ハ左ノ各號ノ順序方法ニ依ル

イ 撃莖ヲ離脱スルニハ圓筒ノ頭部ヲ下方ニシ門子ヲ開キ

門子ヲ開クニハ圓筒内部孔ノ全ク現ハルルヲ度トスヘシ若過度ニ開クトキハ門子鉄釘圓筒内部ニ現ハレ却テ擊莖ノ抽脱ヲ妨クルモノトス
圓筒頭部ヲ上方ニシ擊莖ヲ離脱スヘシ但シ脱出困難ナルトキハ擊莖抽出鉤ヲ擊莖後部ノ内溝ニ鉤シテ抽出スヘシ
口 抽筒子ヲ離脱スルニハ圓筒頭部ヲ前方ニ抽筒子ヲ上方ニシ指ニテ抽筒子ノ後部ヲ強ク壓下シツツ抽筒子駐栓頭ヲ下方ニ右手ニシ圓筒ノ中央部ヲ握リ左手ヲ其ノ前方ニ添ヘ兩手ノ拇指ニテ抽筒子ノ後部ヲ強ク壓下シツツ抽筒子駐栓頭ヲ下方ニシ之ヲ脱出セシメタル儘圓筒頭部ヲ板面ニ輕打スルカ或ハ駐栓ノ先端ヲ壓下シ筒子ヲ上方ニシ圓筒ヲ水平ニ支持シ抽筒子ヲスルヲ要ス
離脱シ發條ヲ離脱スヘシ但シ抽筒子ノ後部ヲ指頭ニテ充分壓下スルコト能ハサルトキハ圓筒頭部ヲ上方ニシ抽筒子ヲ右方ニシ圓筒ノ中央部ヲ尾筒ノ後端ニ挿入シ其ノ右側弧削部ニ抽筒子ノ下部ヲ位置セシメ漸次ニ圓筒ヲ壓下スルトキハ抽筒子

ノ下部ハ充分壓迫セラルルヲ以テ容易ニ駐栓ヲ脱スルコトヲ
得ヘシ

第二十五條 構桿ノ分解ハ左ノ如シ

一 構桿ヲ離脱スルニハ把手ヲ握リ充分後退セシメタル後之ヲ左方
ニ離脱シ

二 構桿發條ノ頭部ヲ少シク扛起シ九十度旋回シテ其ノ軸部ヲ構桿
ヨリ離脱スヘシ

**第二十六條 表尺ヲ離脱スルニハ右手ニテ表尺轉輪ヲ充分外方ニ引キ左
手ニテ表尺ヲ上方ニ抽脱スヘシ**

**第二十七條 跳子ヲ離脱スルニハ尾筒内部ヨリ跳子ノ頭部ヲ押シ跳子ヲ
尾筒ト直角ニシテ抽出スヘシ**

第二十八條 規整子ノ分解ハ左ノ如シ

一 離脱スルニハ規整子螺鑰或ハ手ニテ戻回シテ瓦斯唧筒ヨリ離脱

スヘシ

二 分解スルニハ轉螺子ノ又部ヲ規整子支爪ノ下ニ挿入シテ其ノ爪
部ヲ規整子套ヨリ脱シ支爪ヲ九十度旋回シテ之ヲ離脱シ套ヲ戻回

シテ桿ヨリ脱スヘシ

第二十九條 瓦斯唧筒ヲ離脱スルニハ瓦斯唧筒駐螺ヲ戻回シテ之ヲ脱シ

瓦斯唧筒螺鑰ヲ以テ瓦斯唧筒ヲ右ニ戻回シテ之ヲ脱スヘシ若戻回困難
ナルトキハ銅鎌ヲ以テ螺鑰ヲ輕打シテ戻回セシムヘシ但シ瓦斯唧筒ノ
螺絲ノ經始ハ他ノ螺絲ト異ナリ右ニ旋回スレハ戻リ左ニ旋回スレハ緊
ルヲ以テ注意ヲ要ス

**第三十條 瓦斯唧筒ヲ裝者スルニハ瓦斯唧筒螺鑰ヲ以テ瓦斯唧筒ヲ左ニ
旋回シテ支籠ニ緊著シ支籠左側前端面ノ刻線ト瓦斯唧筒ノ刻線トヲ一
致セシメ駐螺ヲ螺著スヘシ但シ刻線ヲ一致セシメタルトキ瓦斯唧筒鑰
部端面トノ間ニ僅少ノ間隙ヲ存スルハ妨ケナシ**

第三十一條 規整子ノ結合ハ左ノ如シ

一 結合スルニハ規整子套ト桿トチ螺著シテ其ノ支爪軸孔ナ一致セシメタル後支爪ノ軸部ナ套ニ装入シ之ヲ九十度旋回シテ其ノ爪部ナ套ノ溝ニ嵌入セシムヘシ

二 裝著スルニハ瓦斯唧筒ニ螺著シ支爪ヲ瓦斯唧筒下面ノ凹溝ニ吻合セシムヘシ

第三十二條 跡子ナ装著スルニハ蹠子ノ頭部ヲ撮ミ其ノ軸部ナ尾筒ノ蹠子室ニ装入シ蹠子ヲ前方ニ旋回シテ蹠子嘴部ナ尾筒内部ニ位置セシムヘシ

第三十三條 表尺ヲ装著スルニハ右手ニテ表尺轉輪ヲ充分外方ニ引キ左手ニテ表尺ナ表尺室ニ挿入スヘシ

第三十四條 檻桿ノ結合ハ左ノ如シ

一 檻桿發條ヲ装著スルニハ檻桿發條ノ軸ヲ檻桿發條軸室ニ挿入シ

之ヲ旋回シテ檻桿ノ發條室ニ結合スヘシ

二 檻桿ヲ装著スルニハ檻桿前端ノ大突筒ヲ尾筒後方ノ突筒室ニ裝シタル後檻桿ノ裏面ヲ尾筒ニ接著シツツ之ヲ前進セシメ發條ノ鉤部ナ尾筒ニ鉤セシムヘシ

第三十五條 遊底及活塞ノ結合ハ左ノ如シ

一 遊底ナ結合スルニハ左ノ各號ノ順序方法ニ依ル

イ 抽筒子ヲ装著スルニハ圓筒ノ頭部ヲ前方ニ抽筒子室ヲ上方ニシテ水平ニ之ヲ左手ニ支持シ右手ニテ發條ヲ圓筒ノ發條室ニ装シ抽筒子ノ後方ヲ撮ミテ頭部ヲ少シク下ケ其ノ裏面ノ鉤部ヲ圓筒ニ吻合セシメタル後後部ヲ發條ノ上ニ覆載シ拇指頭ニテ抽筒子後部ヲ強ク壓迫シツツ駐栓ヲ挿入スヘシ但シ駐栓挿入ノ際抽筒子ノ壓迫困難ナルトキハ分解ノ際ト同シク圓筒

チ尾筒ノ後部ニ挿入シ同一ノ方法ヲ行フヘシ

ロ 撃莖ヲ裝者スルニハ擊莖離脱ノトキト同様ニ門子ヲ開キ擊莖ヲ裝入シタル後門子ヲ閉鎖ス

二 遊底及活塞ヲ裝著スルニハ左ノ各號ノ順序方法ニ依ル

イ 活塞ヲ半ハ尾筒ニ裝入スヘシ
ロ 遊底内部ノ擊莖ヲ充分前進セシメ門子ヲ少シク開キ遊底ノ下面ヲ左方ニシテ之ヲ右手ニ握リ左手ニテ活塞ノ門子室ニ充分進入セニ旋回シ其ノ後部ヲ支持シ門子ヲ活塞ノ門子室ニ充分進入セシメ活塞ト遊底トヲ平行ニシテ活塞ノ擊莖駐筈ヲ擊莖ノ帶溝ニ結合シタル後遊底ヲ前進セシメ門子ヲ閉チ活塞ヲ旋回シテ遊底ヲ上方ト爲シ遊底及活塞ヲ尾筒ニ充分裝入スヘシ

第三十六條 用心鐵ノ結合ハ左ノ如シ

一 引鐵發條ヲ裝著スルニハ引鐵發條ノ一端切斷ヲ引鐵ノ發條室ニ螺著スヘシ

二 安全栓及引鐵ヲ裝著スルニハ引鐵腳部ヲ用心鐵ノ引鐵室ニ插入シ引鐵發條ヲ少シク屈曲シテ其ノ端ヲ用心鐵ノ發條室ニ裝入シ用心鐵ノ左側ヲ上方トシ其ノ握把ヲ左方ニシ之ヲ左掌上ニ支持シ其ノ指頭ニテ引鐵ノ頭部ト脚部トヲ少シク後方ニ壓シ引鐵ヲ連發桿ニ鉤セシムルコトナク略用心鐵ト直角ニシ用心鐵及引鐵ノ安全栓孔ヲ一致セシメタル後右手ニテ安全栓軸部ノ筈ヲ安全栓軸筈溝ニ一致スル如ク挿入シ之ヲ用心鐵ノ握把ト反對側ニ百八十度旋回スヘシ

三 用心鐵ヲ裝著スルニハ右手ニテ用心鐵ノ握把ヲ握リ其ノ食指ヲ以テ引鐵ヲ引キタル儘引鐵ノ頭部ヲ尾筒ノ引鐵頭部室ニ裝入シ用心鐵ノ上面ヲ尾筒ニ密著セシメタル後引鐵ヲ緩メ用心鐵ヲ前方ニ

壓シテ尾筒ニ装著スヘシ

第三十七條 復坐發條ヲ装著スルニハ之ヲ尾筒ノ發條室ニ挿入スヘシ但シ引鐵連發桿ニ鉤シアルトキハ發條ハ引鐵ニ軋リ其ノ挿入ヲ妨クルコトアルヲ以テ注意ヲ要ス

第三十八條 床尾ヲ装著スルニハ右手ニテ床尾ノ後部ヲ握リ左手ヲ床尾前部上面ニ添ヘテ床尾ヲ尾筒ノ後方ヨリ其ノ準路ニ添ヒテ装入シ左手ニテ駐栓軸部ノ筒ヲ床尾駐栓軸筒溝ニ一致スル如ク挿入シ百八十度ニ旋回スヘシ

第三十九條 装填架ノ結合ハ左ノ如シ

一 装填架ヲ結合スルニハ左ノ各號ノ順序方法ニ依ル

イ 碓子發條ヲ装著スルニハ引鐵發條ヲ引鐵ニ螺著スル方法ニヨリ螺著スヘシ

ロ 碓子ヲ装著スルニハ装填架ノ裏面ヲ上方ニ装填孔ヲ右方ニシ左手ニテ支持シ右手ニ碓子ノ脚ヲ撮ミ碓子發條ヲ架ノ碓子發條室ニ装入シ右手ヲ架ニ添ヘ兩手ノ拇指頭ニテ碓子ノ鉤部及脚ヲ壓下シ左方ニ壓シテ碓子ノ軸ヲ架ノ碓子軸室ニ挿入スヘシ

ハ 送彈齒輪ヲ装著スルニハ送彈齒輪ヲ架ノ送彈齒輪室ニ装入スヘシ

ニ 輪軸及齒止發條ヲ装著スルニハ輪軸ニ齒止發條ヲ装シ架ノ輪軸室ニ之ヲ插入スヘシ

ホ 齒止ヲ装著スルニハ輪軸頭ヲ下方ニシ装填架ヲ臺上ニ立テ之ヲ壓下シ或ハ指頭ニテ輪軸頭ヲ壓シ齒止軸部ヲ架ノ齒止室ニ装入シ之ヲ旋回シテ輪軸ニ結合スヘシ

二 裝填架ヲ裝著スルニハ送彈齒輪ノ吻合齒ノ一ト輪軸ト同一水平面上ニ在ル如ク送彈齒輪ノ位置セシメテ裝填架ヲ銃ノ左側ヨリ尾筒ニ装入シ裝填架駐栓ノ把手ヲ下方ニシ右手ニ撮ミ架ノ駐栓溝ノ後方ヨリ装著スヘシ但シ送彈齒輪ノ吻合齒ノ位置不良ナルトキハ吻合齒ト活塞ノ準梁ト衝突シテ裝填架ノ装著ヲ妨クルヲ以テ注意ヲ要ス

第二節 特別分解及特別結合

第四十條 特別分解ハ左ノ部品ノ全部或ハ其ノ一部ヲ分解スルヲ謂ス

- 一 逆 鉤
- 二 連發桿
- 三 油 槽

四 門子受、門子受被

五 表尺轉輪

六 三脚架

第四十一條 逆鉤ノ離脱及装著ハ左ノ如シ

- 一 離脱スルニハ活塞ノ頭部ヲ前方ニ其ノ裏面ヲ左方ニシ之ヲ臺上ニ托シ逆鉤ヲ木槌ニテ打擊スルカ或ハ銅桿ヲ當テテ輕打シテ之ヲ約九十度旋回シタル後活塞ヨリ離脱スヘシ
- 二 裝著スルニハ活塞頭部ヲ前方ニ其ノ裏面ヲ左方ニシ臺上ニ托シ逆鉤ノ軸部ヲ活塞ニ装シ分解ノ場合ト同一要領ニ依リ逆鉤ヲ旋回シテ装著スヘシ

第四十二條 連發桿ノ分解及結合ハ左ノ如シ

- 一 分解スルニハ木槌或ハ銅鎚ニテ駐栓ノ先部割目ア
ル方ヲ輕打シテ用

分解及結合 特別分解及特別結合

心鐵ノ握把ノ表面ト同高ト爲シ栓抜小ヲ用井テ駐栓ヲ脱シ連發桿
ヲ用心鐵ヨリ離脱シ連發桿發條ヲ連發桿ヨリ戻回シテ離脱スヘシ

二 結合スルニハ連發桿發條ヲ連發桿ニ螺著シ發條ノ端ヲ用心鐵ノ
連發桿發條室ニ装シテ連發桿ヲ用心鐵ニ挿入シ用心鐵ト連發桿ノ
駐栓孔ヲ一致セシメ用心鐵ノ左側ヨリ駐栓ヲ挿入スヘシ

第四十三條 油槽ノ分解及結合左ノ如シ

一 分解スルニハ左ノ各號ノ順序方法ニ依ル

イ 轉螺子ニテ油槽軸ヲ戻回シテ之ヲ抽脱シ油槽ヲ装填架ヨリ
離脱スヘシ

ロ 丁形轉螺子ニテ油槽刷毛匣駐螺ヲ戻回シ注油孔ヨリ食指ヲ
挿入シテ刷毛匣ヲ壓シ之ヲ離脱スヘシ

ハ 轉螺子ニテ油槽駐子發條駐螺ヲ戻回シテ發條及油槽駐子ヲ

装填架ヨリ離脱スヘシ

二 結合スルニハ左ノ各號ノ順序方法ニ依ル

イ 油槽駐子ヲ装填架ノ油槽駐子室ニ装入シ發條ヲ装シ駐螺ヲ

螺著スヘシ

ロ 油槽刷毛匣ノ駐螺孔ト油槽ノ駐螺孔ヲ一致スル如ク刷毛匣
ヲ油槽ニ装入シ駐螺ヲ螺著スヘシ

ハ 油槽ヲ装填架ニ装著シ油槽軸ヲ螺著スヘシ

第四十四條 門子受及門子受被ノ分解及結合ハ左ノ如シ

一 分解スルニハ銃ヲ三脚架ヨリ離脱シ之ヲ臺上ニ托シ銅桿ヲ被ノ
下面ニ當テ銅鏈ニテ桿ヲ鏈打シテ被ヲ上方ニ脱シ桿ヲ尾筒ノ内面
ニ當テ銅鏈ニテ桿ヲ鏈打シテ門子受ヲ外方ニ離脱スヘシ

二 結合スルニハ左右ノ門子受ヲ外部ヨリ門子受室ニ装入シタル後

分解及結合 特別分解及特別結合

門子受被ヲ上方ヨリ門子受被室ニ挿入スヘシ

第四十五條 表尺轉輪ノ分解及結合ハ左ノ如シ

- 一 分解スルニハ表尺ヲ抽出シタル後仕上鉗ヲ以テ蓋螺割栓ヲ抽出シ蟹目轉螺器ニテ蓋螺ヲ戻回シテ表尺轉輪ヲ離脱シ栓抜小チ用井渦狀螺栓ヲ抽脱シテ渦狀螺發條及蓋螺ヲ轉輪ヨリ離脱スヘシ
- 二 結合スルニハ轉輪ニ蓋螺發條ヲ裝シタル後渦狀螺ヲ裝著シテ渦狀螺栓ヲ挿入シ蓋螺ヲ排筒器ニ充分螺著シテ排筒器上面ノ刻線ト蓋螺ノ刻線ヲ一致セシメテ蓋螺ト排筒器ノ割栓孔ニ蓋螺割栓ヲ挿入シ其ノ兩枝ヲ開キテ脱出ヲ防止スヘシ

第四十六條 三脚架明治四十分解及結合ハ左ノ如シ

- 一 三脚架ヲ分解スルニハ左ノ各號ノ順序方法ニ依ル
- イ 銃耳托架ヲ離脱スルニハ轉螺子ヲ以テ架頭駐螺ヲ戻回シ方

向緊定釦ヲ緩メ且照準齒弧ヲ架頭ヨリ抽出シタル後托架ヲ上方ニ離脱スヘシ

ロ 方向緊定桿及方向緊定釦ノ分解左ノ如シ

- 一 方向緊定桿ヲ離脱スルニハ方向緊定桿駐子ヲ壓迫シテ方向緊定桿ヲ握リ駐子ト其ノ歯止トノ噛合ヲ避ケツツ之ヲ左旋シテ抽脱スヘシ

二 方向緊定釦ヲ離脱スルニハ轉螺子ヲ以テ駐螺ヲ房回シタル後緊定釦若補助釦ヲ使用シアルモノハ補助鉤モ共ニヲ托架ヨリ離脱スヘシ但シ托架ヲ架頭ニ装著シアルトキハ銃耳托架ヲ旋回シタル後緊定釦ヲ架頭ヨリ離脱スヘシ

- 三 方向緊定桿駐子及方向緊定桿駐子發條ヲ離脱スルニハ方向緊定桿ヲ托架ヨリ離脱シタル後栓抜小チ以テ駐栓ヲ

抽脱シ駐子及發條ヲ緊定桿ヨリ離脱スヘシ

ハ 銃耳托架駐螺桿ヲ離脱スルニハ 方向緊定釦駐螺ヲ離脱
シタル後銃耳托架駐螺桿ヲ戻回シテ 銃耳托架ヨリ離脱スヘ
シ

ニ 照準齒弧ヲ離脱スルニハ解脫子ノ握把ヲ充分前方ニ倒臥シ
タル後駐螺子ニテ照準齒弧ノ駐筒ヲ戻回シ照準齒弧ヲ上方ニ
抽脱スヘシ

ホ 齒弧轉輪及解脫子ノ分解左ノ如シ

一 齒弧轉輪駐爪ヲ離脱スルニハ解脫子ノ握把ヲ充分後方
ニ倒臥シタル後駐爪發條蓋ヲ壓シ之ヲ九十度旋回シテ抽
出シ駐爪室ヲ下方ニ向ケ發條及駐爪ヲ脱スヘシ

二 齒弧轉輪ヲ分解スルニハ照準齒弧ヲ架頭ヨリ抽出シ解

脱子ノ握把ヲ充分後方へ倒臥シ其ノ上面ノ小孔ヨリ丁形
轉螺子ニテ閉鎖螺駐螺ヲ戻回シタル後駐螺孔ヲ下方ニ向
ケ駐螺ヲ脱シ齒弧轉輪ヲ旋回シテ其ノ螺鑰孔ト閉鎖螺ノ
螺鑰孔トヲ一致セシメ轉輪螺鑰ヲ之ニ裝シ閉鎖螺ヲ戻回
シ栓抜小ヲ用井渦狀螺栓ヲ抽出シテ渦狀螺發條及閉鎖螺
ヲ轉輪ヨリ離脱スヘシ

三 解脫子及解脫子駐筒ヲ離脱スルニハ解脫子ノ握把ヲ充
分前方ニ倒臥シ轉螺子ヲ以テ駐筒ヲ壓シ解脫子ヲ戻回シ
タル後駐筒及發條ヲ離脱スヘシ

ヘ 鞍及鞍坐桿ヲ離脱スルニハ三脚架用螺鑰ヲ以テ鞍坐桿駐螺
ヲ戻回シ鞍及鞍坐桿ヲ鞍坐ヨリ離脱スヘシ

二 三脚架ノ結合左ノ如シ

分解及結合 特別分解及特別結合

イ 鞍及鞍坐桿ヲ装著スルニハ鞍及鞍坐桿ヲ鞍坐ニ装著シ駐螺
ヲ螺著スヘシ

ロ 歯弧轉輪及解脫子ヲ結合スルニハ左ノ各號ノ順序方法ニ依
ル

一 解脫子及解脫子駐筈ヲ結合スルニハ發條及駐筈ヲ銃耳
托架ニ装入シ解脫子ノ握把ヲ銃耳托架ノ下方ト同側ニ位
置セシメテ之ヲ螺著スヘシ

二 歯弧轉輪ヲ結合スルニハ歯弧轉輪ニ閉鎖螺、歯弧轉輪
發條ヲ装シタル後渦狀螺ヲ著著シテ渦狀螺栓ヲ挿入シ次
ニ閉鎖螺ヲ銃耳托架ニ螺著シ閉鎖螺ト銃耳托架ノ駐螺孔
ヲ一致セシメタル後閉鎖螺駐螺ヲ螺著スヘシ

三 歯弧轉輪駐爪ヲ結合スルニハ駐爪ノ齒部ヲ轉輪ノ軸心

ノ方側ト爲シ之ヲ轉輪ノ駐爪室ニ装入シ發條ヲ装シタル
後發條蓋ノ筈ヲ發條蓋筈溝ニ一致スル如ク發條蓋ヲ轉輪
ノ發條蓋室ニ装入シ之ヲ九十度旋回轉輪ノ發條蓋室右側
ニ位置スル場合ニ於テ發條蓋ノ筈ヲ上方ノ溝ヨリ挿入シタル發條蓋ヲ右旋シ
下方ノ溝ヨリ装入シタルトキハ發條蓋ヲ左旋ス又轉輪ノ
發條蓋室左側ニ位置スル場合ニ於テ發條蓋ノ筈ヲ上方ノ
溝ヨリ挿入シタルトキハ發條蓋ヲ左旋シ下方ノ溝ヨリ装
入シタルトキハ

發條蓋ヲ左旋ス

ハ 照準齒弧ヲ装著スルニハ解脫子ノ握把ヲ充分前方ニ倒臥シ
タル後照準齒弧ヲ銃耳托架ノ照準齒弧室ニ装入シ駐筈ヲ照準
歯弧ニ螺著スベシ

ニ 銃耳托架駐螺桿ヲ装著スルニハ駐螺桿ヲ銃耳托架駐螺桿室
ニ螺著スヘシ

ホ 方向緊定桿及方向緊定ノ釣結合左ノ如シ

一 方向緊定桿及方向緊定桿駐子ヲ結合スルニハ發條ヲ緊定桿駐子内部ノ軸部ニ裝著シ發條ノ他端ヲ緊定桿ノ發條室ニ挿入シ駐子ヲ緊定桿ニ裝シテ緊定桿ト駐子ノ駐栓孔ヲ一致セシメタル後駐栓ヲ挿入ス

二 方向緊定桿ヲ裝著スルニハ方向緊定桿駐子ヲ壓迫シテ緊定桿ニ握リ之ヲ方向緊定桿室ニ螺著スヘシ

三 方向緊定釣ヲ裝著スルニハ緊定釣ヲ托架ノ緊定釣室ニ裝入シ駐螺ヲ螺著スヘシ但シ補助釣ヲ使用シアルモノハ方向緊定桿ヲ螺著シタル後補助釣ヲ方向緊定桿ノ前方ニ裝著シ緊定釣ヲ結合スルモノトス

ヘ 銃耳托架ヲ裝著スルニハ照準齒弧及緊定釣ヲ托架ニ衝突セサル如クシテ托架ヲ架頭ニ裝著シ架頭駐螺ヲ螺著スヘシ

第四十七條 三脚架明治四十一年五月制定ノ分解及結合ハ左ノ如シ

一 三脚架ノ分解ハ左ノ各號ノ順序方法ニ依ル

イ 銃耳托架ヲ離脱スルニハ轉螺子ヲ以テ昇降軸駐螺ヲ戻回シ方向緊定桿ヲ緩メ且齒弧ヲ昇降軸ヨリ抽出シタル後托架ヲ上方ニ離脱スヘシ

ロ 方向緊定桿、方向緊定釣、銃耳托架駐螺桿、照準齒弧ノ分解ハ第四十六條ヲ進用ス

ハ 齒弧轉輪及解脫子ノ分解ハ左ノ各號ノ順序方法ニ依ル

一 齒弧轉輪駐爪ヲ離脱スルニハ解脫子ヲ握把ヲ充分後方ニ倒臥シタル後駐爪發條蓋ヲ壓シ之ヲ右方ニ九十度旋回シテ抽出シ駐爪室ヲ下方ニ向ケ發條及駐爪ヲ脱スヘ

二 歯弧轉輪ノ分解、解脫子及解脫子駐筈ノ離脱ハ第四十

六條ヲ準用スヘシ

二 架頭附隨品ノ分解ハ左ノ如シ但シト號ハ其ノ順序ニ依ラサルコ

トヲ得

イ 緊定桿ヲ離脱スルニハ仕上鉗ヲ以テ割栓ヲ抽出シ三脚架用
螺鑰ヲ以テ牝螺ヲ脱シタル後坐鍼ヲ脱シ 緊定桿ヲ抽脱スヘ

シ

ロ 昇降軸ヲ離脱スルニハ轉把ヲ回轉シテ昇降軸ヲ充分上昇セ
シメタル後之ヲ脱スヘシ

ハ 轉把ヲ離脱スルニハ仕上鉗ヲ以テ起動螺ノ割栓ヲ抽出シ三
脚架用螺鑰ヲ以テ牝螺ヲ脱シタル後轉把ヲ離脱スヘシ

ニ 歯輪室蓋ヲ離脱スルニハ丁形轉螺子ヲ以テ九箇ノ駐螺ヲ戻
回シタル後、歯輪室蓋ヲ離脱スヘシ

ホ 誘道歯輪ヲ離脱スルニハ仕上鉗ヲ以テ割栓ヲ抽出シ 三脚
架用螺鑰ヲ以テ牝螺ヲ脱シタル後坐鍼軸及歯輪ヲ離脱スヘ
シ

ヘ 起動螺及起動螺室蓋ヲ離脱スルニハ丁形轉螺子ヲ以テ起動
螺室蓋ノ駐螺ヲ脱シ自在螺鑰ヲ以テ起動螺室蓋ヲ戻回シタル
後起動螺ヲ離脱スヘシ

ト 昇降軸被ヲ離脱スルニハ轉螺子ヲ以テ三箇ノ駐螺ヲ戻回シ
駄環及昇降軸被ヲ離脱スヘシ

三 三脚架ノ結合ハ左ノ如シ

イ 架頭附隨品ノ結合ハ左ノ各號ノ順序方法ニ依ル但シ一號ハ

其ノ順序ニ依ラサルコトヲ得

一 昇降軸被ヲ装著スルニハ昇降軸被及駐環ヲ架頭ニ装著シ架頭昇降軸被及駐環ノ駐螺孔ヲ一致セシメタル後三箇ノ駐螺ヲ螺著スヘシ

二 起動螺及起動螺室蓋ヲ装著スルニハ起動螺ヲ架頭ノ起動螺室ニ装入シ起動螺室蓋ヲ螺著シ架頭ト起動螺室蓋ノ駐螺孔ヲ一致セシメタル後駐螺ヲ螺著スヘシ

三 誘導齒輪ヲ装著スルニハ誘導齒輪ヲ誘導齒輪室ニ装著シタル後、軸ノ割栓孔ヲ上下ト成ル如ク架頭及齒輪ニ装入シ坐鍤ヲ軸ニ装シ牝螺ヲ螺著シ牝螺ト軸トノ割栓孔ヲ一致セシメ然ル後、割栓ヲ挿入シ其ノ兩枝ヲ開キテ割栓ノ脱出ヲ防止ス

四 齒輪室蓋ヲ装著スルニハ齒輪室蓋ヲ架頭ニ装著シ九箇ノ駐螺ヲ装著スヘシ

五 轉把ヲ装著スルニハ轉把ヲ起動螺ニ装著シタル後牝螺ヲ螺著シ牝螺ト起動螺ノ割栓孔ヲ一致セシメ割栓ヲ挿入シ其ノ兩枝ヲ開キテ割栓ノ戻回ヲ防止スヘシ

六 昇降軸ヲ装著スルニハ昇降軸ヲ架頭ノ昇降軸室ニ装入シタル後轉把ヲ回轉シテ昇降軸ヲ半ハ下降セシムヘシ

七 緊定桿ヲ装著スルニハ緊定桿ヲ架頭ノ緊定桿室ニ装入シタル後、坐鍤ヲ装入シ牝螺ヲ螺著シタル後、牝螺ト緊定桿ノ割栓孔ヲ一致セシメ割栓ヲ挿入シ其ノ兩枝ヲ開キテ割栓ノ脱出ヲ防止スヘシ

口 齒弧轉輪及解脫子ノ結合ハ左ノ各號ノ順序方法ニ依ル

一 解脫子及解脫子駐筈ノ結合並齒弧轉輪ノ結合ハ第四十

六條ヲ準用スヘシ

二 齒弧轉輪駐爪ヲ結合スルニハ駐爪ヲ齒弧轉輪ノ駐爪室

ニ裝入シ發條ヲ裝シタル後發條蓋ノ筈ヲ發條蓋筈溝ニ一
致スル如ク發條蓋ヲ齒弧轉輪ノ發條蓋室ニ裝入シ之ヲ九

十度右方ニ旋回スヘシ

ハ 照進齒弧、銃耳托架駐螺桿、方向緊定桿及方向緊定釗ノ結

合ハ第四十六條ヲ準用スヘシ

ニ 銃耳托架ヲ結合スルニハ照進齒弧及緊定釗ヲ昇降軸ニ衝突
セサル如クシテ銃耳托架ヲ昇降軸ニ裝入シ駐螺ナ螺著スヘ

シ

第五章 取扱上ノ注意

第四十八條 銃ヲ使用セサルトキハ左ノ各號ニ注意スヘシ

一 復坐發條ノ張力ヲ衰損セシメサル爲遊底ハ閉鎖シ置クヘシ

二 遊底閉鎖ノ位置ニ於テ安全裝置ヲ旋シ活塞ヲ後退セシムルトキ
ハ逆鉤及引鐵ヲ損傷スルヲ以テ安全栓ノ把手ヲ水平ニ位置セシム

ヘシ

三 引鐵發條ノ張力ヲ衰損セシメサル爲引鐵ハ連發桿ヨリ離脱シ置
クヘシ

四 表尺ハ卸下シ置クヘシ

第四十九條 銃ノ各部品並屬品匣内ノ豫備品ハ他銃ノモノト混同スヘカ
ラス又屬品匣内ノ豫備品ハ豫メ其ノ部ニ適合セシメ置クヲ要ス

取扱上ノ注意

第五十條 屬品匣及器具箱ハ填實ヲ確實ニシ要スレハ木綿等ヲ空部ニ填メ運動間裝填品ノ動搖スルコトナカラシムルヲ要ス

第五十一條 照星ノ損傷及表尺ノ變位ハ命中不良トナルヲ以テ取扱上殊ニ注意シテ他物ニ衝突セシメサル如クスヘシ

第五十二條 銃ヲ三脚架ヨリ離脱シタルトキハ地上ニ置クコトハ力メテ之ヲ避ケサルヘカラス又已ムヲ得サル場合ニ於テモ銃口、照星、照尺及機關部ヲ地ニ觸レシムカラス

第五十三條 銃ヲ顛倒シ或ハ衝突スルコトハ命中ヲ害スル原因トナルヲ以テ最戒慎セサルヘカラス若此ノ過失テ爲セシトキハ必ス各部ヲ詳細ニ検査スルヲ要ス

第五十四條 腔銃中ニ土砂ノ侵入シタルトキハ速ニ之ヲ拭淨スルヲ要ス若之ヲ拭淨スルコトナク尉擊ヲ行フトキハ腔中ヲ損傷スルノ害アリ

第五十五條 銃耳蓋栓、後脚駐栓、後棍駐栓、照準齒弧駐栓等ハ抽脱シ置クヘカラス

第五十六條 銃身覆、照星破、及裝填架被ハ成ルヘク之ヲ裝著シ置クヲ要ス

第五十七條 銃ト三脚架ヲ離脱シ或ハ裝著スル際銃耳ヲ銃耳蓋ニ衝突シ變歪セシメサル如ク注意スルヲ要ス

第五十八條 解脫子ノ握把ヲ後方ニ倒シ上下照準ヲ確定シタル後齒弧轉輪ヲ旋回スヘカラス
銃耳托架ノ鋸齒部竝齒弧轉輪

第五十九條 空擊ハ銃ノ保存上害アルヲ以テ避ケルヲ要ス又遊底ヲ閉鎖スルニハ活塞ノ前進ヲ横桿ニテ支持シツツ徐徐ニ之ヲ行フヘシ

第六十條 連發桿及橫桿ノ使用ニ就キ左ノ各號ニ注意スルヲ要ス
一 保彈鉢ヲ裝入スル際引鐵、連發桿ニ鉤シアルトキハ直ニ連續發

射スルコトニ注意スヘシ

二 槓桿ヲ使用シタル後ハ之ヲ定位置ニ復シ置クヘシ然ラサレハ槓桿發條ノ保存上害アルノミナラス活塞ノ前進不活潑ノ爲不發ヲ生スルコトアリ

三 射擊中、不發等ヲ生シタル場合ニハ先ツ引鐵ノ連發桿ニ鉤シ非サルヤニ注意シ其ノ鉤シアルトキハ之ヲ離脱シタル後活塞ヲ後退シテ之ヲ引鐵ニ鉤セシメ槓桿ヲ舊位置ニ復シ引鐵ヲ引キテ活塞ヲ前進セシムヘシ

第六十一條 油槽ハ實包ニ塗油シテ藥莢ノ抽出ヲ容易ニシ兼テ遊底ノ運動ヲ圓滑ナラシムルモノナルカ故ニ射擊ニ先チ充分刷毛ニ油ヲ浸潤セシメ置キ又射擊中、油ノ闕乏セサル様注意スルヲ要ス

第六十二條 規整子ノ分畫ハ銃製作ノ當初ハ十四乃至十六分畫ヲ適度ト

スルモ之ヲ使用スルニ從ヒ其ノ機關ノ運動ニ遲速ヲ生スルコトアルヲ以テ射擊ニ際シテハ先ツ最近ノ射擊ニ於ケル適度ノ分畫ト同一ニ規整ノスヘシ但シ空包ト實包トハ多少分畫ノ適度ヲ異ニスルコトアリ

第六十三條 沃塞ノ季節ニ於テハ機擊部ノ油、凍結シ機能ヲ害スルコトアルヲ以テ成シ得レハ射擊ニ際シ槓桿ヲ以テ數回機關ヲ運動セシメ尙若干ノ單發射擊ヲ施行スルヲ可トス

第六十四條 射擊ニ際シ引鐵ヲ壓スルコト不充分ナルトキハ引鐵頭ト逆鉤頭ト衝突シテ互ニ磨損スルヲ以テ射擊ノ際ハ引鐵ヲ充分壓迫スルヲ可トス

取扱上ノ注意

第六十六條 抽筒子發條ハ通常弱キ發條ヲ使用スルモノナルモ弱キ發條ニテ空薬莢ヲ抽出シ能ハサルニ至リタルトキハ漸次ニ強キ發條ヲ使用スヘシ

第六十七條 抽筒セサリシトキハ柵杖ヲ以テ徐ニ空薬莢ヲ排出スヘシ
第六十八條 引鐵ノ壓迫ヲ緩ムルモ尙連續發射スルトキハ引鐵ヲ前方ニ
壓スルカ或ハ槓桿ヲ後方ニ支持シテ活塞ノ運動ヲ阻止シ然ル後處置ヲ
施スヘシ

第六十九條 不發ノ場合ニハ槓桿ヲ用ヰテ活塞ヲ後方ニ引キ不發實包ヲ
蹴出シ射擊ヲ再興スヘシ

第七十條 射擊ノ際第二以後ノ保彈鋏ヲ裝填スルニハ前保彈鋏ノ落下シ
タル後ニ於テスルヲ可トス然ラサレハ往往保彈鋏重疊シテ裝填不具合
トナリ射擊ヲ遲滯シ且保彈鋏ノ爪ヲ損スルニ至ルコトアリ

第七十一條 薬莢横截シタルトキハ藥莢拔テ遊底ニ裝シテ横截藥莢ヲ抽
出スヘシ

第七十二條 碍子、碍子發條、安全栓、引鐵、引鐵發條、逆鉤、槓桿發
條、連發桿及連發桿駐栓ノ一部若ハ全部闕損スルトキト雖尙射擊ヲ施
行スルヲ得ヘシ

第七十三條 一度使用シタル保彈鋏ヲ再ヒ使用スルニハ保彈鋏修正器ヲ
以テ之ヲ修正シタル後ニ於テスヘシ但シ保彈鋏ノ爪ノ闕損セル爲實包
ヲ保持スルコト能ハサルトキハ其ノ部ノ實包ヲ闕キ使用スルヲ得此ノ
場合ニ於テハ射擊ニ際シ相當位置ニテ空擊ヲ爲スヲ以テ直ニ槓桿ヲ用
ヰ活塞ヲ後退セシムヘシ

第七十四條 保彈鋏ヲ修正スルニハ二名ニテ左ノ方法ニ依ルヲ便トス但
シ保彈鋏修正器ノ二個ノ圓孔ヲ二個ノ釘頭ニ支持セシメ或ハ適宜ノ依

托物ヲ有スルトキハ一名ニテ行フヲ得

- 一 槓桿ヲ右前方ニ在ラシムル如ク保彈鋏修正器ヲ保彈鋏ノ頭端ヲ左側ニ在ル修正溝ニ後方ヨリ挿入シテ前方ニ抽脱スヘシ
- 二 保彈鋏ノ尾端ヲ中央ニ在レ修正溝ニ後方ヨリ挿入シテ前方ニ抽脱スヘシ

三 保彈鋏ノ頭端ヲ右側ニ在ル修正溝ニ後方ヨリ挿入シ歯受ニ支駐スルニ至ラシメ 槓桿ヲ移動シテ之ヲ押壓スヘシ

四 保彈鋏ヲ斜ニシ其ノ尾端末ヲ右方ニ在ル修正溝ノ前方斜面ニ接セシメ把桿ヲ移動シテ之ヲ押壓スヘシ

保彈鋏ヲ修正スルニ當リテハ鋏ノ前端ヲ稍下方ニ傾斜セシムルコト及最終ノ實包ヲ嵌挿シタルトキハ實包頭部ノ右方ニ偏スルコトナキニ注意スルヲ要ス殊ニ數次使用シタル保彈鋏ニ於テ然リトス

故ニ保彈鋏ハ使用回數ヲ重ヌルニ從ヒ其ノ修正モ亦回數ヲ増加シ尙保彈鋏最終ノ爪ノ匡正シ難キモノハ仕上鉗ノ類ヲ以テ匡正スルヲ要ス

第七十五條 保彈鋏ニ實包ヲ嵌挿スルニハ塵埃ノ附著セサル様又塗蠟ノ剥脱セサル様注意シテ彈頭部ヨリ嵌挿シテ全部嵌挿シ藥莢底ヲ保彈鋏ノ小支小ニ觸接セシメ實包ヲ確實ニ抱容セシメタル後彈藥紙函内ニ收入シ封帶ヲ以テ糊封シ餘端ヲ存スヘシ

第七十六條 三脚架ノ架頭及昇降軸ノ取扱ニハ左ノ各號ニ注意スヘシ

- 一 轉把ヲ廻轉スルニハ緊定桿ヲ緩メタル後ニ於テスヘシ
- 二 昇降軸ヲ扛ケタル後ハ緊定桿ヲ旋回シテ其ノ位置ヲ固定スヘシ
- 三 架頭ト昇降軸トノ間ニハ成ルヘク塵埃ノ入ラサル如ク注意スヘシ

四 時時油孔螺ノ開キ起動螺室ニ油ヲ注クヘシ

第七十七條 三脚架ノ前脚、後脚及前棍、後棍ノ取扱ニハ左ノ各號ニ注意スヘシ

一 前脚及後脚ヲ組立テタルトキハ其ノ駐栓ノ把手ヲ正シク下向ト爲シ置クヘシ

二 前棍ヲ裝スルニハ前棍ノ駐筈ヲ踵鐵受筒ノ準溝ニ嵌メタル後前棍ヲ九十度内方ニ旋回シテ正シク駐筈ト準溝トノ終トヲ合致セシムヘシ

三 後棍ヲ裝シタル後ハ後棍駐栓ノ握把部ヲ後脚軸ト一致スル方向ニシ之ヲ挿シ然ル後之ヲ九十度旋回シテ後脚軸ト正シク直角ナラシムヘシ

第七十八條 三脚架、齒孤轉輪及方向緊定桿ノ取扱ニハ左ノ各號ニ注意

スヘシ

一 解脫子ヲ緩メタルトキ照準齒孤ノ運動自在ニシテ解脫子ヲ緊メタルトキハ確實ニ照準齒孤ノ位置ヲ保定スヘシ

二 方向緊定桿ヲ緊定スル際桿カ右方ニ水平以下ニ旋回スルニ至レハ緊定補助鉗ヲ方向緊定桿ト方向緊定鉗トノ間ニ挿入スヘシ

第六章 修理方法ノ概要

第七十九條 跳子ノ腳部ノ圓筒ト觸接スル部分磨損セルモノハ軸部ト先端ノ約中央腹部ヲ鎚打シテ之ヲ内方ニ彎曲セシムヘシ又修理及交換ヲ行フニハ左ノ各號ニ注意スヘシ

一 遊底ヲ後退シテ跳子頭ト圓筒包底面ト同一ナラシメ跳子頭ヲ外方ニ壓シ跳子ト圓筒ト零耗五以上開カサルヲ要ス

二 圓筒ヲ後退スルニ當リ蹴子ノ頭部ハ圓筒頭部ノ包底面ヨリ少ナ
クモ一耗以上後方ニ於テ蹴子溝底ニ接スルヲ要ス

第八十條 逆鉤ヲ交換スルニハ逆鉤ノ鉤部ト活塞ノ軸心トヲ正シク直角
ナラシメ又逆鉤裏面ノ駐筈ヲ活塞ノ駐筈室ニ吻合セシメ且逆鉤ノ動搖
セサルカ如ク稍堅ク裝著スヘシ又逆鉤ノ側面活塞面ヨリ突出スルモノ
ハ該部ヲ鏟削スヘシ

第八十一條 引鐵ヲ交換スルニハ其ノ頭部前面ハ輕ク尾筒ノ引鐵頭部室
ニ觸接スル如クシ又安全栓ノ把手ヲ水平ニ位置セシメタルトキ安全栓
ト摩擦スルコトナク且引鐵ヲ充分引キタルトキハ復坐發條ト觸接セサ
ルヲ要ス

第八十二條 撃莖ヲ交換スルニハ從來使用セシ撃莖ヨリ約零耗五長ク鏟
削シ單發射擊ヲ行ヒ其ノ結果ニヨリ過長ナルトキハ漸次鏟削シ射擊ノ

結果雷管ヲ衝破セサルニ至ルヲ程度トシテ止ムヘシ

第八十三條 門子ヲ交換スルニハ左ノ各號ノ順序方法ニ依ル

一 圓筒ニ銳著シアル門子・銳釘頭部ノ周圍ヲ小鑿ニテ削肉

錐ヲ以テ穿孔シテ
削肉スルモ可ナリ

シ栓抜大ヲ以テ銳釘ヲ抽出シ門子ヲ離脱スヘシ

二 抽出シタル門子銳釘ヲ以テ假ニ新門子ヲ圓筒ニ結合シ藥室內ニ
ハ新シキ擬製彈ヲ裝入シ置キ活塞ヲ除キ遊底ヲ閉鎖遊底ヲ閉鎖シ
密接スルヲ要ス

シ門子後緣カ門子受ニ吻合シ且門子受上面ト同
高ト成ル迄門子ヲ油砥ヲ以テ漸次研磨スヘシ

三 假銳釘ヲ脫シ新シキ銳釘ヲ銳著シ其ノ圓筒内部ノ撃莖室ニ突起
スル部分ハ略鏟削シタル後、門子用割大ヲ以テ充分削肉スヘシ尙
銳著ニ際シ注意スヘキ事項左ノ如シ

イ 圓筒ト門子ノ銳釘孔ト一致セサルトキハ門子用割小ヲ以テ

一致セシムヘシ

ロ 圓筒ニ門子ヲ鉸著シタルトキ門子ノ運動ハ少シグ困難ナル
ヲ可トシ又左右ニ動搖スルコトナキヲ要ス

第八十四條 門子受ヲ交換スルニハ門子受ヲ尾筒ノ門子受室ニ堅ク裝著シ前條ニ準シ門子ノ後縁ヲ研磨シ門子ト門子受ヲ吻合セシムヘシ

第八十五條 抽筒子ヲ交換スルニハ左ノ方法ニ依ル

一 抽筒子ノミチ圓筒ニ裝シ其ノ爪部ニ擬製彈ヲ鉤シテ之ヲ前方ニ引キテ抽筒子ノ鉤部ヲ圓筒ノ鉤部ニ吻合セシメタルトキ及抽筒子ノ頭部ヲ充分外方ニ開キタルトキ其ノ駐栓孔ノ周圍カ圓筒ノ駐栓孔内ニ突出スル部ヲ鏟削スヘシ又抽筒子ノ駐栓孔外面ト圓筒内ノ擊莖ト摩擦スルトキハ該部ヲ鏟削スヘシ但シ之ヲ檢スルニハ擊莖幹部ノ削肉セル部分ト抽筒子駐栓孔部ノ外面ト摩擦セサルヤニ注

意スヘシ

二 抽筒子爪部ト圓筒包底面トノ間隙ハ抽筒子ヲ後退セシトキ一耗七、抽筒子ヲ前進セシトキ二耗四ト成ル如ク抽筒子ノ鉤部ヲ鏟削スヘシ

第八十六條 碍子ノ活塞ニ鉤スル部分磨損シタルトキハ碍子ノ軸部上面ノ傾斜部ヲ鏟削シ活塞ニ鉤スル面ヲ増大スヘシ又裝填架ニ保彈釦ヲ裝入シタル際碍子ノ鉤部ト活塞ノ碍子筒ト離脱セサルモノハ其ノ離脱スルニ至ル迄碍子ノ鉤部ヲ鏟削スヘシ

第四 野戰築城教範草案拔粹

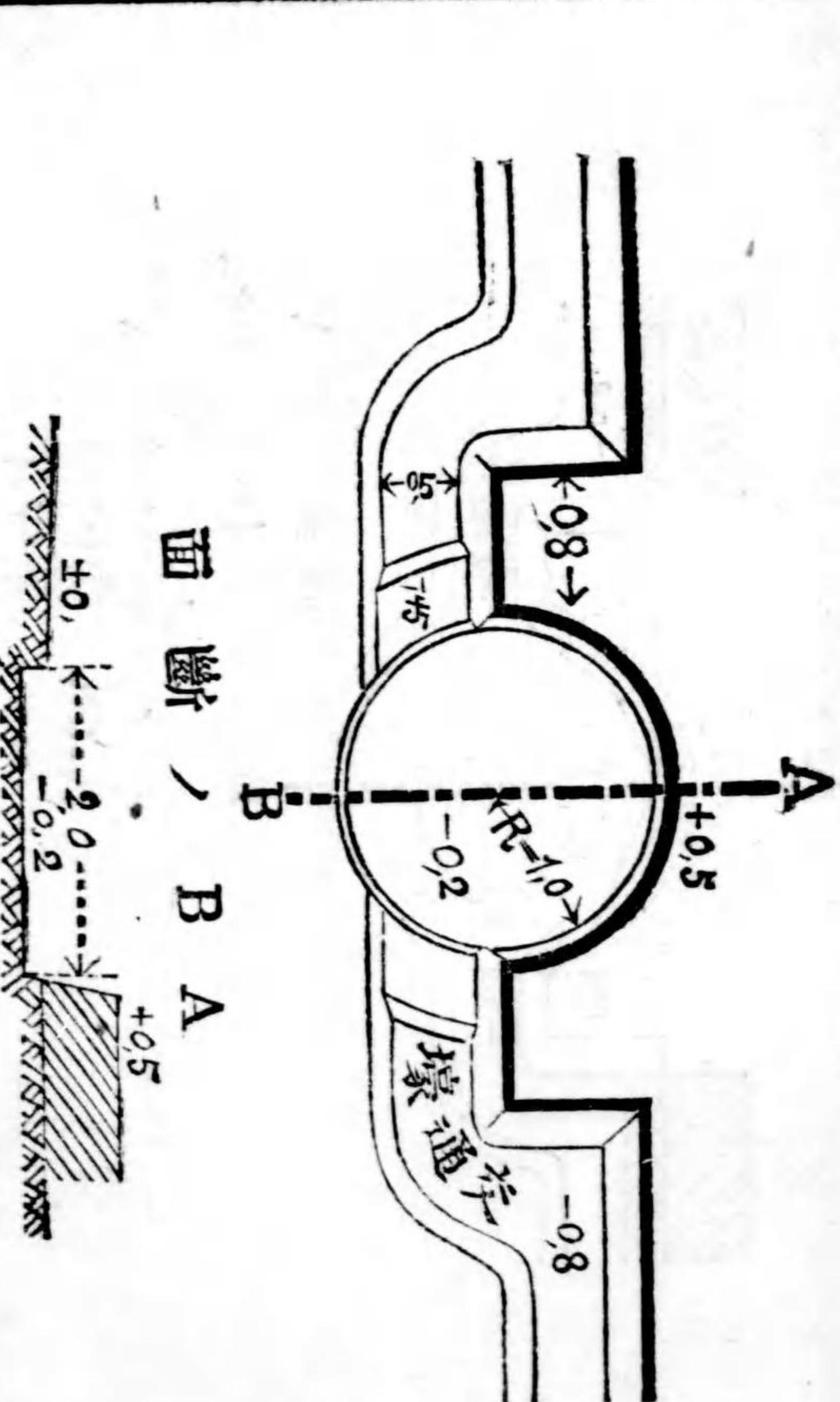
野戰築城教範草案案抜粹

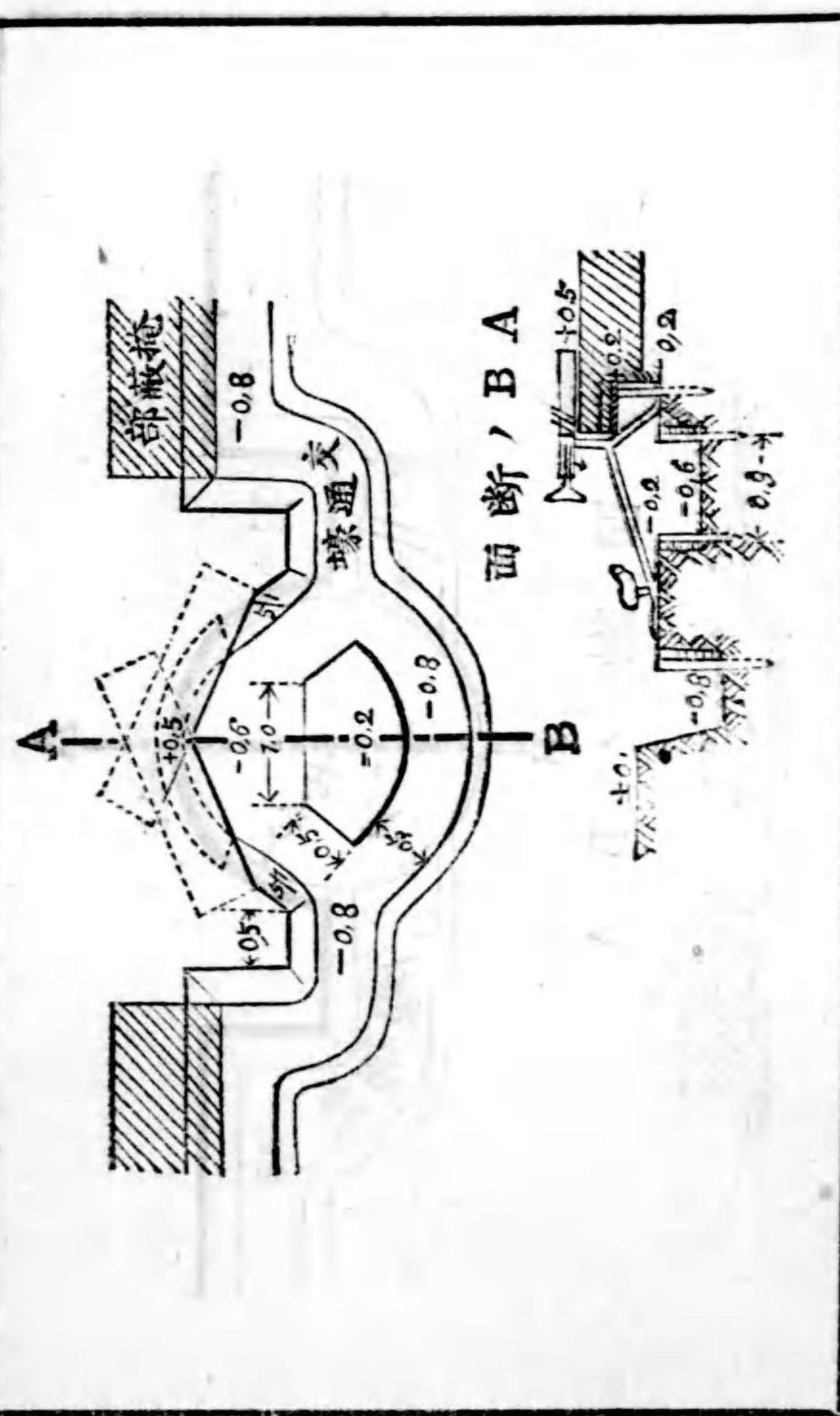
機關銃ノ掩體

第六十七 防禦陣地ニ設備スル機關銃ノ掩體ハ膝射用ニ構築スルヲ通則
トス

第六十八 第三十二圖ハ迅速ニ射擊開始ヲ必要トル場合ニ構築スル所
ノ銃坐ニシテ散兵壕内或ハ特ニ設ケタル交通壕内ニ設備シ得ルモノナリ
而シテ時間ノ餘裕ヲ得ルニ從ヒ漸次之ヲ増築シテ第三十三圖ノ如ク銃坐
ノ後方ニ交通壕ヲ周ラシ銃手掩護ヲ增加スル爲掩體ヲ構築ス

底圖





大正五年三月七日印刷
大正五年三月十日發行

〔定價金十五錢〕

東京市神田區今川小路一丁目五番地

發行者刻軍代表者友龜岡泰會躬

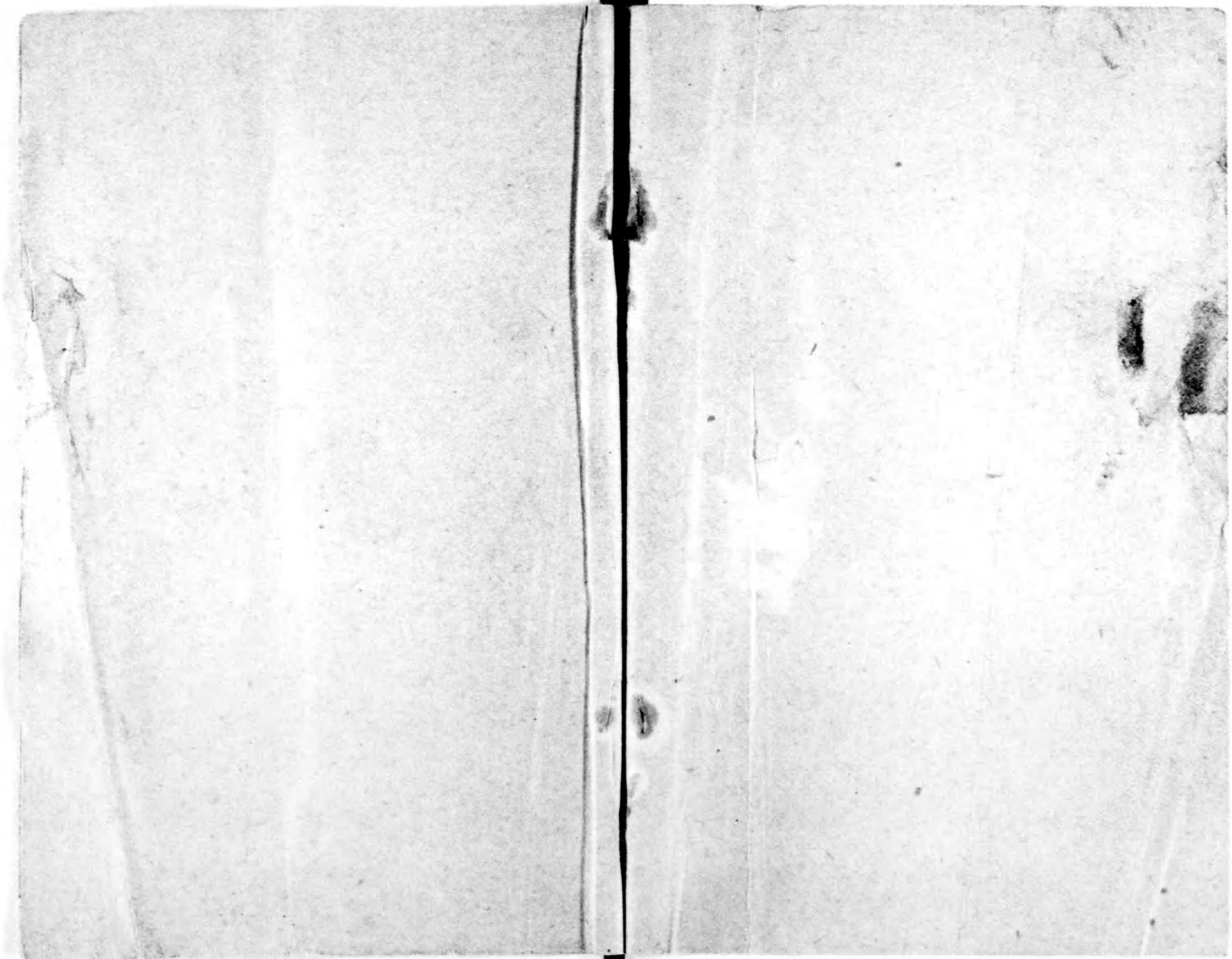
印刷者東京市神田區豊島町三十四番地

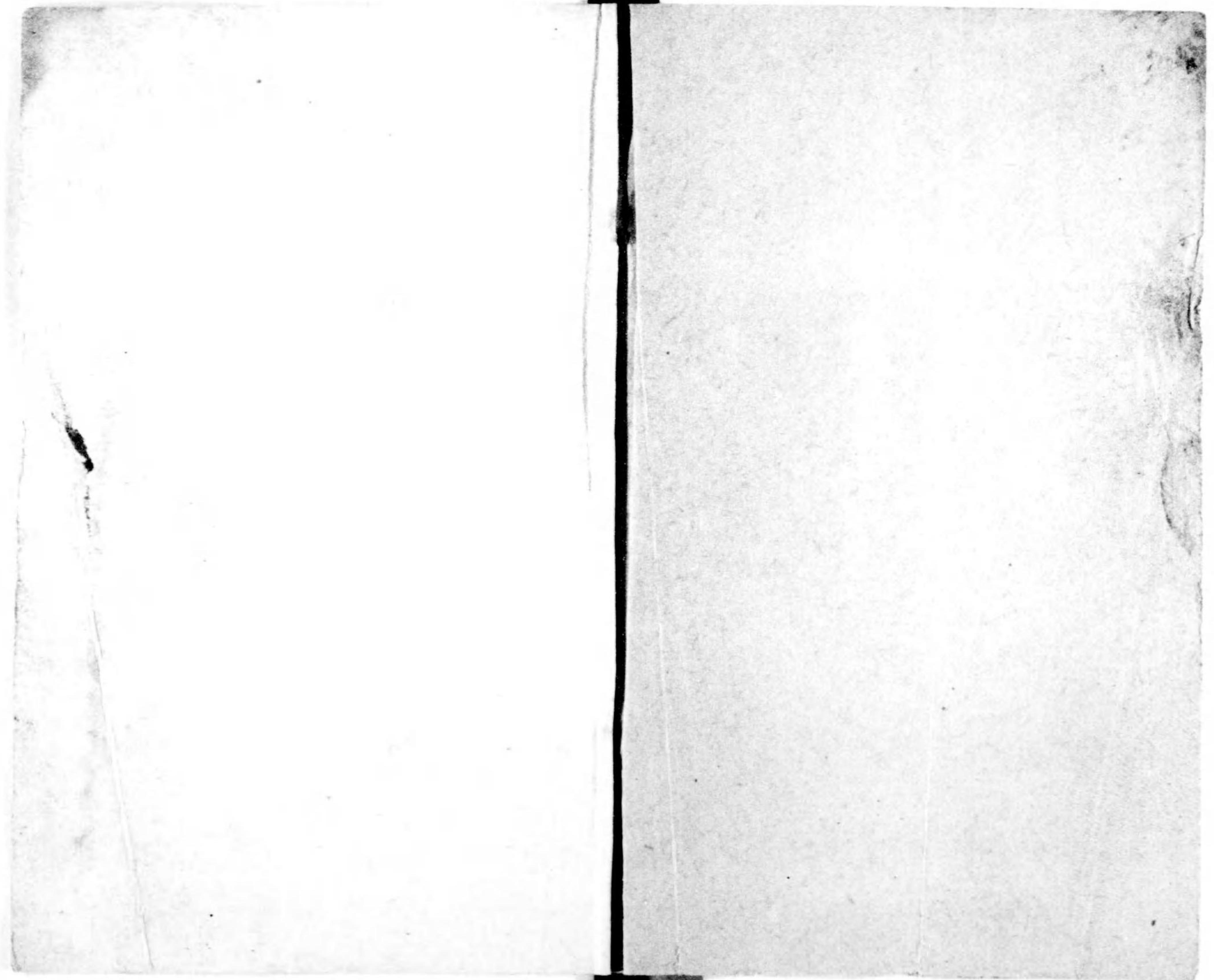
金山佐次

東京市小石川區豊川町十五番地

發行所一一二館
電話番號二六一九九九番
郵局東京二九九九番







終

